

令和元年度
事業報告書



社会福祉法人阪南市社会福祉協議会

平成31年4月1日～令和2年3月31日

目 次

1. 阪南市社会福祉協議会概要	
(1) 社協の概要	3
(2) 役員名簿	4
(3) 評議員会名簿	5
(4) 組織構成会員団体一覧	6
(5) 事務局体制	7
2. 会議	
1-1 法人運営に関係する会議の開催	8
1-2 地域福祉推進に関係する会議の開催①	10
1-3 地域福祉推進に関係する会議の開催②	11
1-4 阪南市等が主催する会議への参加	12
1-5 その他の会議・研修等	13
3. 事業報告	
(1) 法人本部拠点	
1-6 地域支え合い活動協力金(会員募集)	15
1-7 広報誌発行及びホームページ維持管理事業	16
2-1 ボランティアセンター事業	17
3-1 小地域ネットワーク推進事業	18
3-1-①～⑫12校区(地区)福祉委員会	21
4-1 地域力強化推進事業	35
4-2 多機関の協働による包括的支援体制構築事業	36
5-1 阪南市介護者(家族)の会支援事業	38
5-2 きらめきアート作品展(当事者組織支援事業)	39
6-1 日常生活自立支援事業	40
7-1 福祉資金貸付事業	41
8-1 生活支援・介護予防サービス協議体運営事業	43
9-1 地域介護予防事業	44
10-1 善意銀行事業	45
11-1 阪南市地域交流センター「ふれ愛ホーム」	46
12-1 地域交流館管理運営事業	47
13-1 赤い羽根共同募金運動(一般募金)	49
13-2 歳末たすけあい運動	50
(2) 地域包括支援センター拠点	
14 包括的支援事業	
14-1 総合相談支援業務	51
14-2 権利擁護業務	53
14-3 包括的・継続的ケアマネジメント	54
14-4 地域ケア会議推進事業	55
14-5 介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力	56
14-6 在宅医療・介護連携の推進事業	57
14-7 介護予防事業普及啓発活動への協力	58
14-8 任意事業(介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業)	59
15-1 認知症施策の推進	60
16-1 介護予防サービス計画の作成(指定介護予防支援事業)	63
17-1 キャラバンメイト育成支援業務	64
18-1 認知症啓発業務	64
その他の会議・研修等	66

1. 社会福祉法人阪南市社会福祉協議会概要(令和2年3月31日現在)

(1) 社協の概要

名 称	社会福祉法人阪南市社会福祉協議会
設立年月日	昭和 56 年 3 月 31 日
法人認可	昭和 56 年 7 月 15 日
所 在 地	大阪府阪南市尾崎町 1 丁目 18 番 15 号
役 員	【理事】定数 17 名(会長 1 名、副会長 3 名) 【監事】定数 2 名
顧 問	3 名
評 議 員	定数 30 名
事 務 局	法人本部(尾崎町 1-18-15) 西鳥取・下荘地域包括支援センター(箱作 3515-7)

(2)役員及び顧問名簿

【役員定数】理事 17名 監事 2名

【任 期】平成31年4月1日から令和3年度初回の定時評議員会まで 令和2年3月31日時点

役 職	氏 名	選出母体	備 考
会 長	ツノ 築野 ヨシテル 由照	桃の木台校区福祉委員会	
第1副会長	まえだ あつこ 前田 厚子	民生児童委員協議会	
第2副会長	たなか ちよこ 田中 千余子	阪南市介護者(家族)の会	
第3副会長	にしうら ひ で あき 西浦 日出彰	阪南市自治会連合会	
理 事	おおや ひろふみ 大宅 博文	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会	
理 事	こすげ ひろお 小菅 弘夫	上荘校区福祉委員会	
理 事	ほそぎ みき 細木 美紀	東鳥取校区波太地区福祉委員会	
理 事	うきた あきら 浮田 明	尾崎校区尾崎地区福祉委員会	
理 事	いしくら おさむ 石倉 修	舞校区福祉委員会	
理 事	おくの ひでとし 奥野 英俊	阪南市商工会	
理 事	みつい ともし 三井 智子	阪南市社会福祉協議会ボランティアセンター	
理 事	のりおか たかし 法岡 隆史	阪南市社会福祉施設連絡会	
理 事	たけなか よしのぶ 竹中 義信	市民活動団体 特定非営利活動法人シニアベンチャークラブ	
理 事	まつわな りょうすけ 松若 良介	泉佐野泉南医師会	
理 事	しんじ こうじ 宍道 厚治	阪南市教育委員会 生涯学習部長	
理 事	ほんだ かずたか 本田 和隆	学識経験者 地域福祉推進計画作業委員長	
理 事	やじま みつお 矢島 満夫	学識経験者 事務局長	
監 事	いじり けんじ 井尻 健治	税理士	
監 事	おけたに けんじ 桶谷 建二	社会福祉法人有誠会下出作業所施設長	
顧 問	みなみ たけお 南 武雄	阪南市社会福祉協議会 前会長	
顧 問	みずの けんじ 水野 謙二	阪南市社会福祉協議会 元会長	

(3)評議員会名簿

【評議員定数】 25 名以上 30 名以内

【任 期】 平成 29 年 4 月 1 日から平成 33 年に終了する会計年度のうち最終に関する提示評議員会の終結の時まで

(令和 2 年 3 月 31 日時点)

選出基準	組織構成会員団体名	評議員氏名
住民代表的性格のつよいもの	阪南市自治会連合会	小幡 静雄
	阪南市連合婦人会	吉田 美智子
	阪南市青少年指導員協議会	松岡 英次
	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会	南 敏晴
	上荘校区福祉委員会	山本 勇
	朝日校区朝日地区福祉委員会	石丸 征司
	朝日校区山中溪地区福祉委員会	三澤 統治
	尾崎校区尾崎地区福祉委員会	岡崎 邦夫
	尾崎校区福島地区福祉委員会	芝野 重廣
	西鳥取校区福祉委員会	古川 珠紀
	舞校区福祉委員会	今井 晴美
	下荘校区下荘地区福祉委員会	肥田 茂夫
	下荘校区箱作地区福祉委員会	斉藤 和夫
福祉専門機関・団体的性格のつよいもの	阪南市民生委員児童委員協議会	野頭 拓子
	特別養護老人ホーム玉田山荘	山田 邦夫
	特別養護老人ホーム玉井泉陽園	新田 升啓
	社会福祉法人光生会大阪ピープルハウス阪南	川口 和美
	特定非営利活動法人くらしのたすけあい えぷろんの会	村上 英司
	社会医療法人生長会 阪南市民病院	村中 秀樹
	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 さつき園・まつのき園	打越 寛子
	社会福祉法人阪南福祉会しいの実こども園	山野 守彦
	阪南市役所生涯学習部長	伊瀬 徹
	阪南市更生保護女性会	木村 厚子
当事者団体的性格のつよいもの	障がい者団体連絡協議会	名倉 由貴
	阪南市老人クラブ連合会	谷下 宗一
	阪南市介護者（家族）の会	池田 昌子
関連分野・団体	阪南市歯科医師会	安田 久史
	泉南薬剤師会	八田 守也
	阪南市人権協会	中井 孝幸
その他学識	阪南市議会	畑中 譲

(4)組織構成会員

所 属 領 域	番 号	団 体 名
〈領域Ⅰ〉 住民代表的性格のつよいもの	1	阪南市自治会連合会
	2	阪南市連合婦人会
	3	阪南市商工会
	4	阪南市青少年指導員協議会
	5	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会
	6	上荘校区福祉委員会
	7	朝日校区朝日地区福祉委員会
	8	東鳥取校区波太地区福祉委員会
	9	朝日校区山中溪地区福祉委員会
	10	尾崎校区尾崎地区福祉委員会
	11	尾崎校区福島地区福祉委員会
	12	西鳥取校区福祉委員会
	13	舞校区福祉委員会
	14	下荘校区下荘地区福祉委員会
	15	下荘校区箱作地区福祉委員会
	16	桃の木台校区福祉委員会
〈領域Ⅱ〉 福祉専門機関・団体的性格のつよいもの	17	阪南市民生委員児童委員協議会
	18	社会福祉法人玉田山福祉会 特別養護老人ホーム玉田山荘
	19	社会福祉法人大泉会 特別養護老人ホーム玉井泉陽園
	20	社会福祉法人大泉会老人保健施設メデケアタマイ
	21	社会福祉法人光生会大阪ビーブルハウス阪南
	22	社会福祉法人友愛の里
	23	社会福祉法人野のはな
	24	社会福祉法人三秀會 海薔
	25	特定非営利活動法人くらしのたすけあい えぶろんの会
	26	特定非営利活動法人はあとの会
	27	有限会社大城介護サービス
	28	リボン介護サービス
	29	デイ介護サービスリブ
	30	グループホーム白馬
	31	社会福祉法人さくら
	32	グループホームはるすのお家・阪南
	33	医療法人なぎさ会
	34	社会医療法人生長会 阪南市民病院
	35	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 阪南市立さつき園・まつのき園
	36	社会福祉法人有誠会下出作業所
	37	社会福祉法人舞福祉会 舞グリーンフレンズ
	38	社会福祉法人ぽけっと福祉会 ワークセンターぽけっと
	39	NPO法人ハートワークひだまり
	40	NPO法人いるか
	41	社会福祉法人根来学園 ワンワン認定こども園
	42	社会福祉法人阪南福祉会 しいの実こども園
	43	社会福祉法人任天会幼保連携型認定こども園桃の木の森こども園
	44	特定非営利活動法人子どもNPOはらっぱ
	45	阪南市役所福祉部長
	46	あじさいサークル
	47	阪南支部保護司会
	48	阪南市更生保護女性会
	49	公益社団法人阪南市シルバー人材センター
	50	ケアショップ ハル
	51	社会福祉法人レーベンダンクライフケア尾崎
	52	はいむケアサービス
	53	一般社団法人やまなみ福祉会 生活介護事業所 きずな
	54	阪南郷土探究クラブ
	55	株式会社Higashi
	56	リュウ鍼灸・整骨院
	57	医療法人薮下脳神経外科・内科
	58	特定非営利活動法人スウェル
〈領域Ⅲ〉 当事者団体的性格のつよいもの	59	さつき園家族会
	60	阪南市視力障がい者福祉協会
	61	阪南市聴力障がい者協会
	62	阪南市精神障がい者協議会
	63	阪南市老人クラブ連合会
	64	阪南市介護者(家族)の会
	65	学校に行きたがらない子どもを持つ親の会フラワーズ
	66	あざみ会
〈領域Ⅳ〉 関連分野、団体	67	和泉学園
	68	泉佐野泉南医師会阪南支部
	69	阪南市歯科医師会
	70	泉南薬剤師会
	71	阪南市在宅保健師の会
	72	阪南市人権協会
〈領域Ⅴ〉 その他学識	73	阪南市議会

(5) 事務局体制

(令和2年3月31日現在)

職員数 22名 (正規職員8名 非常勤職員14名)

○業務分担

【法人運営、地域支援、市受託事業等】

役 職	氏 名	主な担当業務
常務理事兼事務局長	矢島 満夫	事務局統括、法人運営、会計責任者、 共生の地域づくり推進本部長
事務局次長	猪俣 健一	事務局次長、企画、地域福祉推進、 共生の地域づくり推進員(第二層生活支援コーディネーター)
主任	田中 浩一	総務、会計、労務、地域支援
職員	佐藤 萌香	共生の地域づくり推進員(第二層生活支援コーディネーター) 地域支援
職員	吉川 宗秀	地域支援、当事者組織支援
職員	安居 章	丸ごとネットワーク推進員、地域支援
嘱託職員	中口 真理子	ボランティアセンター、地域支援、介護予防事業
嘱託職員	西浦 浩子	地域交流館、広報
嘱託職員	岡本 綾	ボランティアセンター
嘱託職員	永井 宗代	総務、労務、経理補助
嘱託職員	堂前 はるみ	総務、労務、経理補助

【日常生活自立支援事業】

役 職	氏 名	主な担当業務
主任	坂上 尚大	日常生活自立支援事業専門員 共生の地域づくり推進員(第一層生活支援コーディネーター)
嘱託職員	川岸 理恵	日常生活自立支援事業専門員
嘱託職員	加賀 麻弓	日常生活自立支援事業生活支援員
嘱託職員	田辺 みどり	日常生活自立支援事業生活支援員

【地域包括支援センター】

役 職	氏 名	主な担当業務
所長	熊抱 潤	所長、社会福祉士
職員	大塚 安希	保健師
嘱託職員	安永 公子	保健師
嘱託職員	寺井 由樹江	主任介護支援専門員
嘱託職員	船津 摩衣	社会福祉士
嘱託職員	岡 やよい	認知症地域支援推進員、介護支援専門員
嘱託職員	植田 桂子	介護支援専門員

1-1 法人運営に係る会議の開催

【理事会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和元年 5月21日	1	第1号議案 平成30年度 事業報告(案)について 第2号議案 平成30年度 決算報告(案)について 第3号議案 平成30年度 監査結果の報告について 第4号議案 欠員評議員候補者及び交代評議員候補者の推薦について 第5号議案 遺贈資産の登記(一部放棄)と今後の対応 第6号議案 職員の給与改善と給与減額の実施について
令和元年 6月20日	2	第1号議案 会長1名の選任について 第2号議案 副会長3名の選任について 第3号議案 常務理事1名の選任について 第4号議案 顧問の指名に関する件について
令和元年 8月20日	3	第1号議案 役員報酬の支払いに関する定款・諸規程の一部改廃について 第2号議案 はなていアクションへの応募について 第3号議案 令和元年度 共同募金運動の実施について 第4号議案 原田氏遺贈分減殺請求による返還支出について 第5号議案 事務決裁規程の一部改正について 第6号議案 第2回評議員会の開催について
令和元年 10月15日	4	第1号議案 阪南市 令和2年度当初予算に対する要望について 第2号議案 災害ボランティア活動に関する協定の締結及び災害対応マニュアルの作成について 第3号議案 原田氏遺贈資産(寄附額)の確定と今後の活用について 第4号議案 令和元年度 第一次補正予算の編成について
令和元年 12月10日	5	第1号議案 阪南市生活困窮者自立支援事業並びに民生委員協議会事務局の業務受託について(はなていアクション応募結果) 第2号議案 令和元年度 上半期決算監査の報告について 第3号議案 令和元年度 第一次補正予算(案)について 第4号議案 日常生活自立支援事業の利用料の改定(案)について 第5号議案 市民活動センター運營業務委託 プロポーザルへの応募について 第6号議案 令和元年度 第3回評議員会の開催について
令和元年 2月18日	6	第1号議案 事務局長の退任に伴う後任者の採用について 第2号議案 令和2年度 事業活動の基本方針と取組の方向性(案)について 第3号議案 働き方改革(非正規職員制度改正と処遇の改善)の実施について 第4号議案 阪南市 市民活動センター運營業務について 第5号議案 令和2年度新規事業の実施に係る定款の一部改正について
令和元年 3月17日	7	第1号議案: 芝野氏遺贈寄附金(品)に関する受領について 第2号議案: 令和元年度 第二次補正予算書(案)について 第3号議案: 令和2年度 事業計画(案)について 第4号議案: 令和2年度 当初予算(案)について 第5号議案: 就業規則及び非常勤職員就業規則の一部改正について 第6号議案: 経理規程の一部改正について 第7号議案: 第4回 評議員会の開催について 第8号議案: 阪南市老人クラブ連合会事務局受託について

【評議員会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和元年 6月20日	1	第1号議案 平成30年度 事業報告について 第2号議案 平成30年度 決算書について 第3号議案 平成30年度 決算監査報告について 第4号議案 役員の選任について 第5号議案 職員給与等の改善及び職員給与の減額について
令和元年 9月19日	2	第1号議案 役員報酬の支払いに関する定款・諸規程の一部改廃について 第2号議案 令和元年度 共同募金運動の実施について 第3号議案 原田氏遺贈分減殺請求による返還支出について
令和元年 12月19日	3	第1号議案 令和2年度 生活困窮者自立支援事業等新規事業実施について 第2号議案 令和元年度 上半期決算監査の報告について 第3号議案 令和元年度 第一次補正予算(案)について 第4号議案 日常生活自立支援事業の利用料の改定(案)について 第5号議案 市民活動センター運営業務委託 プロポーザルへの応募について
令和2年 3月26日	4	第1号議案 令和元年度 第二次補正予算書(案)について 第2号議案 西鳥取・下庄地域包括支援センター運営規程の一部改正について 第3号議案 阪南市市民活動センター運営業務受託について 第4号議案 コミュニティソーシャルワーカー配置促進事業業務受託について 第5号議案 阪南市老人クラブ連合会事務局受託について 第6号議案 令和2年度新規事業の実施にかかる定款の一部改正について 第7号議案 働き方改革にかかる定款の一部改正について 第8号議案 経理規程の一部改正について 第9号議案 令和2年度 事業計画(案)について 第10号議案 令和2年度 当初予算(案)について

【評議員選任・解任委員会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和元年 5月28日	1	議長の選出、評議員の選任(5名)について

【監事監査の実施状況】

日 時	回	議案
令和元年 5月10日	1	議長の選出、評議員の選任(5名)について

1-2 地域福祉推進に関する会議の開催①

(1) 会議概要

名 称	地域福祉推進連絡協議会
開催期間	令和元年4月1日～令和2年3月31日
会議の趣旨	阪南市地域福祉推進計画の策定や進捗管理をおこない、地域福祉推進に関わる公民それぞれの情報交換や意見交換をおこなう
構成員	公募市民、各種団体代表、校区福祉委員会、行政関係課、関係機関等
主担当課	社協、市役所市民福祉課
参 加	社協副会長3名、事務局長、地域担当職員

(2) 開催実績

日 時	名 称	主な内容
令和元年7月25日	第1回阪南市 地域福祉推進 連絡協議会	・保健福祉各個別計画の取組について ・第3期地域福祉計画及び同実施計画の推進について ・阪南市における共生の地域づくり推進事業について ・台風21号・24号への取組と被害状況について
令和2年2月17日	第2回阪南市 地域福祉推進 連絡協議会	1. 地域福祉推進計画作業委員会における取組について ひきこもり支援について 2. 阪南市における共生の地域づくりについて 地域力強化推進事業について 3. 地域福祉施策の再構築について 4. その他 地域活動等のための空家等利活用について
令和元年10月31日	第1回地域福 祉推進計画作 業委員会	1 泉佐野保健所管内及び阪南市の自殺者の状況について 2 「ひきこもりの方の理解と支援について」 3 グループワーク 「ひきこもりの方の支援について 地域住民として できること」

1-3 地域福祉推進に係る会議の開催②

(1) 会議概要

名 称	校区長・事務長・ボランティアコーディネーター会議
開催期間	令和元年5月10日～令和2年3月6日
会議の趣旨	校区福祉委員会の主要な役員である校区長・事務長・ボランティアコーディネーターを対象に、社協事業や校区福祉委員会活動に係る情報提供や意見交換をおこなう。
構成員	各校区福祉委員長、事務長、ボランティアコーディネーター 社協会長、副会長、理事、顧問、事務局
主担当課	社協
参 加	矢島常務理事、地域担当職員

(2) 開催実績

日 時	名 称	主な内容
令和元年5月10日	第1回校区長・事務長・ボランティアコーディネーター会議	(1) 令和元年度地域支え合い活動協力金(社協会員募集)について (2) 阪南市共生の地域づくり推進事業(阪南ほっこりプロジェクト)について (3) 市幼稚園バスの使用について (4) 校区長等会議からの各種委員の選出について (5) 校区(地区)福祉委員会新任役員研修について
令和元年7月12日	第2回校区長・事務長会議	(1) 阪南市共生の地域づくり推進事業(阪南ほっこりプロジェクト)について (2) はなていアクション(阪南市行政サービス協働化事業)について (3) ボランティア活動保険について
令和元年9月13日	第3回校区長・事務長会議	(1) 令和元年度(第73回)共同募金運動実施について (2) 令和2年度阪南市当初予算への要望について (3) 阪南市共生の地域づくり推進事業について
令和元年11月8日	第4回校区長・事務長会議	(1) 令和元年度(第73回)共同募金運動実施について (2) シニア・障がい者いきいき創作展について (3) 災害ボランティアセンター運営マニュアルについて
令和2年1月10日	第5回校区長・事務長会議	(1) 令和元年度共同募金・歳末たすけあい運動について (2) 令和2年度介護予防事業の方向性について (3) 地域福祉施策再構築の方向性について
令和2年3月6日	第6回校区長・事務長会議	(1) 新型コロナウイルスへの対応について (2) 令和2年度地域介護予防事業について (3) 市幼稚園バスの使用申請について (4) 「共生の地域づくり推進事業」について (5) 各種年次報告提出の依頼について

1-4 阪南市等が主催する会議への参加

(1) 会議概要

	名 称	所 管	担当
全 般	阪南市赤十字奉仕団	日本赤十字社大阪府支部（市 危機管理課）	会長・副会長 （田中・前田）
	地域医療を共に創る会	市健康増進課	会長
	阪南市自治基本条例推進委員	市地域まちづくり支援課	田中副会長
	阪南市防災会議	市危機管理課	会長
	阪南市人権協会	阪南市人権推進課	会長
	阪南市人権擁護に関する審議会	阪南市人権推進課	前田副会長
	阪南市シルバー人材センター 理事	シルバー人材センター	会長
	大阪府共同募金会 評議員	大阪府共同募金会	会長
	阪南地区募金会 会長	大阪府共同募金会	会長
	阪南市社会教育委員会	生涯学習推進室	会長
	公民館運営審議会	生涯学習推進室	矢島
	阪南市子ども読書活動推進協議会	市立図書館	佐藤
	市町村社協連合会（会長・事務局長会）	大阪府社協	会長・矢島
	市町村社協連合会幹事（H29・30）	大阪府社協	矢島
	市町村社協連合会（泉州ブロック会議）	大阪府社協	坂上
	阪南市市民協働推進委員会	地域まちづくり支援課	猪俣
高 齢	阪南市介護保険運営協議会	介護保険課	会長
	阪南市地域密着型サービス運営委員会		
	阪南市地域包括支援センター運営協議会		
	阪南市医療と介護の多職種連携会議	介護保険課	猪俣
	介護人材確保連絡会議	大阪府社協	矢島・猪俣
障 が い	阪南市障害者施策推進協議会	市民福祉課	矢島
	阪南市岬町自立支援協議会	市民福祉課	坂上
児 童	阪南市子ども子育て会議	子ども家庭課	安居
	阪南市児童虐待防止ネットワーク 代表者会議	子ども家庭課	矢島
	阪南市児童虐待防止ネットワーク 実務者会議	子ども家庭課	猪俣
	泉鳥取高校学校協議会	泉鳥取高校	坂上

1-5 その他の会議・研修等

人権研修

日 時	名 称 (主催/場所)	参加者
令和元年 7 月 30 日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「僕とベビー・ヴァギー ～性は虹色バリエーション～」 (阪南市、人権協会他/サラダホール)	坂上、岡本
令和元年 8 月 20 日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「毎日がおもしろい！発達障がいの私と子どもたちが 日々笑顔のコツ」 (阪南市、人権協会他/サラダホール)	安居

対外的な視察受け入れ・事例発表等

【視察受け入れ】

日 時	名 称	対応
平成 31 年 4 月 11 日	大阪府高齢介護室介護支援課長「生活支援体制整備事業」視察	舞校区、社協 茶の間ギャラリー
令和元年 8 月 6 日	大阪府社協 市町村社協新任職員研修	マスターズ café 箱の浦自治会ま ちづくり協議会、 社協
7 月 5 日	東海村社協職員 「法人運営」「子ども福祉委員」ヒアリング	社協
7 月 8 日	ぎふ NPO センター「災害に備えた地域づくり」ヒアリング	社協
7 月 22 日	寝屋川市社協和光校区「子ども福祉委員」視察	桃の木台校区、 社協
7 月 24 日	熊取町「阪南ほっこりプロジェクト(地域共生)」ヒアリング	市民福祉課、社 協
7 月 26 日	泉大津市社協職員 「地域福祉計画」 ヒアリング	社協
7 月 30 日	NPO サービスグラント「子ども福祉委員」視察	桃の木台校区、 社協
9 月 2 日	天王寺区社協理事「子ども福祉委員」視察	桃の木台校区、 社協
9 月 3 日	羽曳が丘校区福祉委員会「子ども福祉委員」視察	桃の木台校区、 社協
9 月 4 日、5 日	大阪市立大学・デラサール大学(フィリピン)「サロンカフェ」	朝日・舞校区、 社協

10月24日	有田市協議体メンバー「舞 MSS」視察	舞校区、社協
10月30日	池田市役所・池田市社協「地域共生」ヒアリング	市役所、社協
12月9日	大阪狭山市社協「地域共生」ヒアリング	社協
12月12日	国交省研究官「舞 MSS」視察	舞校区、社協

【事例発表等】

日 時	名 称 （主催／場所）	登壇者
令和元年6月14日	同志社大学社会福祉実習 実践講義	猪俣
6月14日	実習講義(同志社大学／京都)「地域共生の取り組み」	猪俣
6月23日	インターンシップフェア(Face to FUKUSHI／梅田)「社会福祉協議会とは」	猪俣
7月17日	地域組織担当者会議(府社協／大阪)「地域共生の取り組み」	猪俣、安居
8月17日	地域づくりコーディネーター交流研修会(CLC／西梅田)「地域福祉実践について」	猪俣
9月9日10日	いきがい・助け合いサミット in 大阪(さわやか福祉財団／大阪)「生活支援コーディネーター・子ども福祉委員」	猪俣・坂上
9月26日	海南市社協職員視察「地域福祉計画・社協全般」	猪俣・佐藤
11月1日	地域共生社会推進フォーラム(岡山県社協／岡山)「地域共生社会について」	猪俣、(市:藤村課長)
11月6日	民児協児童部会研修(門真市民児協／門真)「子ども福祉委員」	桃の木台校区・猪俣
11月21日	政策・実務研修「災害時行動要支援者対策」(全国市町村国際文化研修所／滋賀)「普段からの災害時要援護者支援」	猪俣
11月29日	福祉委員会活動研修会(堺市西区社協／堺)「子ども福祉委員」	桃の木台校区・猪俣
1月20日	災害時にも強い地域づくり(ぎふ NPO センター／岐阜)	猪俣
1月22日	大阪府スマートエイジングシティ会議(大阪府／大阪市)「子ども福祉委員」	猪俣
1月23日	生活支援コーディネーターフォローアップ研修(奈良県社協／橿原)「子ども福祉委員」	猪俣・佐藤
2月7日	大阪府 CSW スキルアップ研修(大阪府社協／大阪市)	猪俣
2月18日	住民参加支え合いフォーラム(街かどケア滋賀ネット/滋賀)	坂上

1-6 地域支え合い活動協力金事業（法人運営事業）

（１）事業概要

広く阪南市民に社協事業、地域福祉活動の理解を広め、協力金（会費）の拠出、会員への参加をもって地域福祉に参画していただく事業で、地域での福祉事業を進める際の貴重な財源となっています。なお、多くの住民・団体・事業者が会員として参加していることによって社協組織の公共性が保たれることになり、社協にとっては組織の性格上、最大限に重きを置く事業です。

○推進期間

令和元年 6 月 1 日～7 月 31 日 （※実施期間は通年）

○配分割合

実績の 6 割・・・校区（地区）福祉委員会

実績の 4 割・・・社会福祉協議会

（２）実施内容・実績

区 分	金 額	件 数	実績額
組織構成会員	6,000	73	420,000 （昨年度：402,000）
個人 A	500	3,296	1,648,000 （昨年度：1,604,500）
個人 B	1,000	777	777,000 （昨年度：789,000）
個人 C	2,000	272	544,000 （昨年度：586,000）
個人 D	5,000	15	75,000 （昨年度：75,000）
個人 E	10,000	11	110,000 （昨年度：90,000）
法人 A	5,000	30	150,000 （昨年度：145,000）
法人 B	10,000	27	270,000 （昨年度：270,000）
協力金	—		661,400 （昨年度：663,900）
計			4,655,400 （昨年度：4,625,400）

（３）成果・評価

例年減少傾向が続いていましたが、校区（地区）福祉委員会や自治会、市民の協力を得て令和元年度は昨年度の実績額より増加しました。

（４）課題・今後の方針

いかに社協や福祉委員会活動について理解をいただき、協力をいただけるかが課題です。しっかりと日々の活動や事業の PR をする必要があります。

今年度は、組織構成会員に 73 団体が構成員になっていただきましたが、来年度は 100 団体の確保に努めるため施設連絡会や市民活動団体等へ声掛けをしてまいります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
4,655,400 円	会費収入	昭和 54 年度

1-7 広報誌発行及びホームページ維持管理事業（法人運営事業）

（1）事業概要

社会福祉協議会事業や校区福祉委員会活動、くらしに役立つ情報、また地域福祉活動の大きな担い手であるボランティア活動に関する情報を広報誌、ホームページにより発信した。

（2）実施内容・実績

業務	実績（内容）
社協広報誌「ふくし はんなん」の発行	年4回発行 （第139号、第140号、第141号、第142号） 部数 23,900部（全戸配布）
ふくしはんなん編集会議の開催	発行ごとに2回 年8回
ホームページの利用	利用者：9,779人 延べ閲覧：83,815ページ ブログ更新：36記事 （昨年度）利用者：12,473人 延べ閲覧：123,518ページ ブログ更新：92記事
ホームページ維持管理（オフィス游 江川氏との打ち合わせ）	4月～3月 毎月1回 12回

（3）成果・評価

- ・社協広報誌「ふくしはんなん」ボランティア情報コーナー「ちょボラ」の内容を編集委員と共に検討することで、見やすくわかりやすい広報紙を心掛け「見える社協づくり」を目指した。そのことで、「ふくしはんなん」が見やすくなったとの声を多数いただく。
- ・また今年度より全8ページに内容を凝縮し、内面2ページをカラー化し、より読みやすい誌面作りを目指した。結果、制作から配布までの経費を前年度より492,799円縮小（23%減）し、広告収入は、前年度より119,000円増加（99%増）という実績を得た。
- ・ホームページ・ブログを活用し取組みの発信を行った。
- ・図書館、子ども福祉委員、地域包括支援センターなどの記事を掲載することで、幅広い年齢層にも対応した情報を伝えることができている。
- ・ホームページ・ブログの定期的な更新をおこない、「見える社協づくり」に向けた拡充に取り組むことができた。
- ・緊急事態宣言による休館情報や新型コロナウイルスに伴う特例貸付の案内など有効な情報発信の活用が出来た。
- ・学生や若い世代のネットワークとしてtwitter「はんなんミラモン」を立ち上げた。

（4）課題・今後の方針

- ・より若い世代に情報を伝えていくため、twitterなどのSNSと連動させる。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
1,279,736円	広報費収入 一般募金配分金	昭和59年度(12月)

2-1 ボランティアセンター事業

(1) 事業概要

地域における多様な福祉問題に対応するため、ボランティアセンターの運営強化や若年層や地域活動者への福祉教育、新規活動者の開拓を目指します。

また、専門性のあるボランティア養成の場を活用し、必要に応じたボランティア活動を支援すると共に、校区（地区）福祉委員会等の地域に根ざした活動団体と NPO、市民活動団体等が力を合わせ協働できる地域福祉活動を展開します。

(2) 実施内容・実績

- ◇ボランティア登録者数-----113 名（30 年度 104 名）
- ◇ボランティア相談件-----60 件（30 年度 55 件）
- ◇ボランティアコーディネート件数-----11 件（30 年度 17 件）
- ◇運営委員会の開催-----6 回
- ◇ボランティアコーディネーター連絡会の開催-----4 回 延べ 77 名参加
- ◇ボランティア★ひろば-----参加者：ボランティア 16 名 施設・団体 16 名
- ◇ボランティアグループ連絡会-----参加団体：12 グループ
- ◇ボランティアグループ登録-----34 グループ、特技ボランティア 6 名、サポートボランティア 11 団体
(30 年度 30 グループ + 特技ボランティア 5 名 + サポートボランティア 11 団体)

◇夏休みボランティア DAY

実施期間： 令和元年 7 月 20 日～8 月 24 日 プログラム数：10

参加者： 43 名（小学生 2 名、中学生 7 名、高校生 5 名、大学生 3 名 専門学校 19 名、Smile4 名、一般参加 1 名、保護者 1 名）

◇第 16 回ボランティア・市民活動フェスティバル 日時：3 月 14 日（土）9：30～15：00

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

協賛：企業・団体からの協賛金＜81 口：243,000 円＞

協賛金の返金のご案内をしたところ返金希望は 3 団体のみで、12 校区・33 団体の皆様よりご寄附を賜りました。＜ご寄附総額：219,000 円＞

ボランティアフェスティバル実行委員会の開催 5 回 委員 15 名

(3) 成果・評価

- ・運営委員会、コーディネーター連絡会、グループ連絡会では形式上の会議ではなく、積極的な情報交換が行われ、各校区の新たな取り組みや催しの内容、課題等を共有しました。
- ・夏休みボランティア DAY（学生向けの福祉教育）、ボランティア★ひろばをとおして、多様なボランティア活動について知ること、新規活動者が昨年度より 9 名増加しました。
- ・夏休みボランティア DAY の参加者は、1 か月間の活動をとおしてボランティアへのイメージが「人を助ける仕事、しんどい仕事」から「自分も笑顔になれるもの」と価値観が変化しました。

(4) 課題・今後の方針

- ・ボランティアの担い手をいかに増やしていくかが課題になっています。市民活動センターとの協働事業を通し、ボランティア活動をする人の裾野を広げていけたらと思います。また、災害時に備え、年 1 回災害ボランティアセンター設置・運営訓練を開催していきたいと思っています。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
647,061 円	研修参加費、印刷機手数料、協賛金 物品販売、プルタブ収集、法人繰入金	昭和 58 年度

3-1 小地域ネットワーク推進事業

(1) 事業概要

阪南市より委託を受け事業実施しています。

孤立化を防ぎ、ともに支え合う活動として、住民交流、生きがい、健康づくり、見守りネットワークづくりなどの事業を、12校区の校区福祉委員会や各種団体の協働のもと実施しています。

(2) 実施内容・実績

①地区担当職員による福祉委員会支援

職員による地区担当制をとり、福祉委員会の組織運営や活動運営に参画し、運営への助言や関係機関との連絡調整、事務支援などを行いました。

(委員会) 概ね年2～3回程度×12校区 (役員会) 概ね年12回程度×12校区

(活動への参加) 随時参加し、専門的視点で活動のあり方、福祉課題等を把握する

②ワーカーの資質向上・情報共有

地区担当と事務局長が参加する「地域支援担当職員会議」を年6回おこないました。

(内容) 地域支援の技術や方法の共有・地域の活動情報の交換・テーマ学習など

③校区(地区)12校区(地区)福祉委員会概況

校区(地区)名	委員数	ボランティア数	事務局拠点
東鳥取	62	7	東鳥取校区福祉委員会事務局
上 荘	49	0	上荘校区福祉委員会事務局
朝 日	28	39	なし
波 太	36	5	波太校区福祉委員会事務局
山中溪	33	20	なし
尾 崎	49	8	阪南市地域交流館内
福 島	34	12	尾崎小学校旧保健室
西鳥取	66	2	なし
舞	66	44	あたごプラザ
下 荘	55	54	なし
箱 作	45	0	なし
桃の木台	28	18	なし
合 計	551	209	

(※令和元年度報告分より、ボランティア数は福祉委員との重複を除いた実数を集計)

④校区(地区)12校区(地区)福祉委員会活動実績(介護予防活動除く)

地域の各種団体代表や趣旨賛同者等で構成される福祉委員やボランティアが中心となり、以下の活動を実施しました。

活動名	実施回数	延べ参加者数	延べボランティア数
いきいき健康教室	22 回	367 人	127 人
ミニデイサービス	4 回	78 人	53 人
ひとり暮らし高齢者食事会	58 回	1,765 人	755 人
世代間交流	49 回	3,441 人	753 人
子育てサロン	83 回	860 人	368 人
まちなかサロン(※)	215 回	4,129 人	692 人
まちなかカフェ(※)	272 回	8,012 人	1,558 人
地域美化活動	56 回	107 人	523 人
個別訪問活動	288 回	1,524 人	381 人
個別電話活動	1,177 回	1,577 人	848 人
講座・勉強会	22 回	672 人	234 人
茶話会	27 回	322 人	133 人
その他	268 回	3,519 人	1,457 人
合 計	2,273 回	22,854 人	6,425 人

(※) まちなかサロンカフェは福祉委員会が主催するもののみ。それ以外含む集計は以下に掲載。

⑤まちなかサロン・カフェの推進

i) まちなかサロンカフェの実施

職員が、新規サロンカフェ立ち上げ相談や運営支援・情報提供などを行っています。

【実施状況】

年度	校区（地区）数	開催か所数	開催回数	年間延べ参加者
令和元年度	12	41	999	24,844
（前年度）	（12）	（38）	（1,049）	（26,677）

ii) まちなかサロン・まちなかカフェネットワーク連絡会の開催・運営

まちなかサロン・カフェを運営する担い手同士が相互につながり交流・研鑽することを目的に社会福祉協議会が事務局となり、ネットワーク連絡会を運営しました。

- ・加盟団体 41 団体（福祉委員会や自治会等）
- ・まちなかカフェサロンマップの作成、配布

iii) まちなかサロン・カフェ推進フォーラムの開催

阪南市で多様な居場所からひろがる共生の地域づくりをすすめていくため、サロン・カフェに求められる役割や出番の必要性、居場所の多様性について学ぶフォーラムを 2 月 21 日(金)に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止しました。

⑥活動者・関係者の情報交換や研修

i) 校区長・事務長・コーディネーター会議の開催

年 6 回、12 校区（地区）の委員長、事務長、ボランティアコーディネーターを参集し連絡

会議の開催。課題の共有や情報提供などおこないました。

ii) 阪南市社会福祉施設連絡会

【実施概要】

令和元年 11 月 13 日 (水) 午後 1 時 30 分～3 時	地域貢献活動冊子(仮)の作成について 普段の地域貢献の取り組みについて
---------------------------------------	--

【参加者】

市内社会福祉施設、行政、CSW、社協 計 23 名
施設情報や地域貢献情報をまとめた「TUNAGARI ぶっく」を 3,500 部作成
(2019 年度大阪しあわせネットワーク助成金を活用)

(3) 成果・評価

【活動の充実】

まちなかサロン・まちなかカフェは新たに 3 か所新規登録が増えました。また小地域ネットワーク活動の参加者数も大幅に増加し、地域での支え合い活動の拡充をしっかりと支援することができました。

【地区担当職員の配置充実】

我が事・丸ごとの地域づくり推進事業と連動し、地区担当職員を増員したことで、よりきめの細かい地域支援をおこなうことができました。

【行政・関係機関との連携】

サロン・カフェ等での市の職員研修の受け入れを行いました。また、地域包括支援センターや CSW と地域支援の方向性を話し合う地域情報共有会議の実施、身近な課題をキャッチするまちなかほっこり相談の実施など、行政や関係機関等との協働を進めることができました。

(4) 課題・今後の方針

地域での福祉課題が増えていることや、専門職側からの地域との協働の意向が強まっており、各地区担当職員の業務も増大しています。現在の職員体制を維持充実しながら、引き続き、より小地域でのきめ細かい福祉活動の充実と、新たな福祉課題や困難課題を専門職と住民が受け止める困りごととキャッチの体制づくりを進めていきます。

事業費総額 (円)	財源	事業開始年度
24,013,328 円	市小地域ネットワーク事業補助金	平成 10 年度

3-1-①東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会

(1) 事業概要

東鳥取小学校近くにある校区福祉委員会拠点を活用した安心ダイヤル、カフェ、歌の交流サロン等や住民センターを活用した食事会・茶話会、小学校・幼稚園、校区内にある高齢者入所施設等との交流活動等を展開しています。地域包括支援センター職員がカフェに参加する回数も増え、身近な相談の場として充実させるための動きがみられています。

(2) 実施内容・実績

【個別援助活動】

- くらしの安心ダイヤル活動（拠点より電話 週2回）実施回数 89 回ボランティア 221 名/対象者 276 名
- ひとり暮らし誕生日祝い（毎月）10 回（2 月 3 月はコロナウイルスの影響で、中止）
- 子育て相談活動（月 1 回第 2 水曜日）

【グループ援助活動】

- ひとり暮らし高齢者食事会（年 4 回）
- ひとり暮らし高齢者の会支援（東寿会）
- 茶話会・地域リハビリ活動（年 6 回）
- クリスマス会開催（年 1 回）

【世代間交流】

- 昔の遊び、昔のくらし、茶話会での交流
- 幼稚園児との交流
- どんぐり文庫運営支援（月 1 回又は毎週水曜日）

【地域美化活動】

- 地域美化啓発活動

【その他】

- 小学生登校時の声かけ見守り活動
- 拠点を活用した交流活動
 - ・東鳥取まちなかカフェ活動（週 1 回程度）
 - ・歌う交流センター（月 1 回、週 1 回）
- 地区別の取り組みの推進
 - ・石田まちなかカフェ「ひだまり」開催（月 2 回）
 - ・さつき台まちなかカフェ開催（月 1 回）
- 校区福祉委員会だより「話・和・輪」編集
- 活動拠点整備の実施（書庫の改築）

3-1-② 上荘校区福祉委員会

(1) 事業概要

週 2 回、拠点での安心ダイヤル登録者への電話連絡を丁寧に行い、その際、民生委員や福祉委員、ボランティア同士で情報共有するなど、丁寧な関わりを行っています。上荘小学校体育館で行われる「あそぼうデイ」では、多くの子どもたちが楽しみにしているなど、子どもから高齢者まで楽しみに参加してくれる活動を心がけています。

(2) 実施内容・実績

(個別援助活動)

○くらしの安心ダイヤル活動

・安心ダイヤル事業を実施する中で、電話による安否確認や励ましの声掛け、さらには近年特殊詐欺による被害が多いことから注意を呼び掛けてきました。

・審査会を行い、登録者の情報共有、支援内容の話し合いを行います。登録者は計 140 名（A 登録 15 名・B 登録 48 名・ABC 登録 21 名・C 登録のみ 56 名）。令和元年度の新規登録者は 17 名。退会者は 5 名でした。またキット更新を必要時に行い、民生委員を中心にボランティアとチームを組み、情報を最新のものに更新しています。

(グループ援助活動)

○食事会

A・B 登録者を対象に 11 月 8 日に実施。黒田住民センターで、はあとり幼稚園の園児（5 歳児）16 名と先生方に来ていただき、歌、遊戯、肩たたきなどで楽しい時間を過ごすことができました。

○茶話会

災害時要援護者登録された方全員（A・B・C）を対象とした茶話会を下出住民センターで 1 回開催しました。今回は新たな取り組みとして、参加者の特技披露や、嚙下体操をしました。3 月の茶話会は、コロナウイルスの影響で、中止となりました。また、9 月の敬老月間には、希望者に配食を 58 名の方宅までお届けしました。

(世代間交流)

○下出公園の美化活動では、上荘小学校、下出白寿会、下出子ども会、アダプトと協働で活動を行いました。その他にも餅つき、昔のあそび、昔のくらし等小学校と連携しながら事業を行っています。多様な機関と連携し活動を行うことで、住民に校区福祉委員会の活動を知ってもらう機会となりました。NPO はらっぱと協働で、小学校の体育館を使用して「あそぼうデイ」に取り組み、今年度は延べ 585 名の小学生の参加がありました。

(その他)

○はあとりフェスタ（車イス体験学習）

○校区福祉委員会広報活動「福祉だより」発行等

○阪南市防災訓練（上荘小学校）への協力

○ボランティアフェスティバルへの参加

3-1-③ 朝日校区朝日地区福祉委員会

(1) 事業概要

個別援助活動として、くらしの安心ダイヤル活動や行事ごとへのお誘い活動を実施。グループ援助活動としては、和泉鳥取住民センターで、参加者が手芸や食事を通し日常の居場所作りや繋がり作りを、和泉鳥取台住民センター、桜ヶ丘住民センターでは情報交換を目的に誰もが気軽に集まれるサロン・カフェを開催しています。また、来年度から緑ヶ丘モーニングカフェの活動が福祉委員会地区別活動として位置づけされたことや、子ども福祉委員の創設といった新たな活動の広がりが出てきました。あわせて継続して、就労継続支援B型「ワークセンターぽけっと」の利用者さんとの交流を実施しています。

(2) 実施内容・実績

(個別援助活動)

【くらしの安心ダイヤル活動】

声かけ、見守り活動 対象人数延べ 252 人

(グループ援助活動)

【いきいきサロン活動(朝日会)】

和泉鳥取住民センターにて 12 回開催

参加者：177 名 ボランティア 82 名

【地区別カフェ・サロン活動】

桜ヶ丘サロン 年 11 回 参加者 142 名 ボランティア 19 名

和泉鳥取台カフェ 年 11 回 参加者：55 名 ボランティア 3 名

緑ヶ丘モーニングカフェ 年約 22 回 参加者：1517 名 ボランティア 379 名

【介護予防事業】

和泉鳥取住民センター、緑ヶ丘住民センターにて開催

のびのび 6 回/136 名の参加・ボランティア 12 名

こつこつ 10 回/218 名参加・ボランティア 33 名

いきいき 5 回/74 名参加・ボランティア 18 名

【一人暮らし食事会】

和泉鳥取住民センターにて 4 回開催

46 名の参加 ボランティア 58 名

【子育てサロン】

和泉鳥取住民センターにて 4 回開催

33 名の参加 ボランティア 21 名

【世代間交流】

4 回 ボランティア 35 名

3-1-④ 東鳥取校区波太地区福祉委員会

(1) 事業概要

身近な住民さんたちが集える居場所であるサロンを週1回開催しています。メニューが増え、飲み物の種類も多く、ぜんざいも好評です。また、年5回の高齢者食事は、手作りの食事を提供し、めずらしい野菜なども取り入れ、皆さんに喜ばれています。波太地区独自のネットワーク台帳の管理も行い、高齢化している住民の把握に努めています。

(2) 実施内容・実績

小地域ネットワーク活動として個別援助活動では訪問及び電話でのきめ細かい見守り支援を行える体制をとっています。グループ援助活動では定期的な食事会の開催に取り組みました。またほっとサロンはたの運営を通して福祉事業所との連携を行い、障がいのある方の社会参加につながり、地域の身近な居場所づくりに努めました。さらに買い物支援では、ほっとサロンはたの開催日時に合わせて生協の移動販売をすることで、買い物支援と居場所作りを連動させた活動を展開しました。

(個別援助活動)

○ネットワーク台帳・安心ダイヤル登録者の見直し作業

・波太地区独自のネットワーク台帳登録者(平成22年度時点65歳以上の方)と、安心ダイヤル登録者の救急キットの見直し作業を行いました。

・民生委員を中心に、地区福祉委員会やCSWで訪問を行い、救急キットを見直しました。

・団地の集約事業が開始していることから、団地内で移動する方も多く、少しずつ引っ越しの把握に努めています。

(グループ援助活動)

○りびんぐほっと・サロン(年間43回・延べ1,013名の参加者)

・CSWや包括支援センターの職員が来訪し、ほっこり相談を月1回開催し、サロンに来られる方の個別相談を受けました。

○介護予防事業

・のびのび:6回、111名の参加

・いきいき:2回、17名の参加

○波鶴亀会食事会(5回、181名の参加)

・波鶴亀会食事は、年4回の食事会と、新春お楽しみ会(冬年1回)を開催しました。

・ライフケア尾崎の出張デイサービスでは、ゲームや体操、歌を楽しく取り入れ、皆さんを喜ばせてくれました。またボランティアも多様なゲームや催しを企画しました。

(世代間交流)

○東鳥取小学校との世代間交流では、昔のあそび、昔のくらし等小学校と連携しながら事業を行っています。住民に地区福祉委員会の活動を知ってもらう機会となりました。

○鳥取東中学校との「さわやかふれあいデー」に参加しました。

(その他)

○買い物支援での生協の移動販売車の利用、サロン開催時間に来てもらうことでサロン活動と連動した取り組みが出来ました。

○波太学習方法研修会への支援

・週3回子どもの学習支援が円滑に行われるように、集会所確保の支援をしました。

・月1回子ども食堂の開催に伴い、集会所の確保や調理器具などの貸し出しを行いました。

3-1-⑤ 朝日校区山中溪地区福祉委員会

(1) 事業概要

1 校区 1 自治会 1 自主防災組織という地域性を活かし、安心ダイヤル登録者やひとり暮らし高齢者誕生日訪問等のきめ細かな対応を展開して、校区内での繋がりづくりに努めています。

(2) 実施内容・実績

○役員会（年 7 回）

○総会（年 1 回）

【個別援助活動】

- ・くらしの安心ダイヤル活動（救急キット確認〔更新〕訪問）
- ・ひとり暮らし高齢者誕生日訪問（月 1 回程度）

【グループ援助活動】

- ・いきいき体操（3 回）81 人
- ・いきいき百歳体操 毎週木曜日 平均 9 人参加
- ・ボランティアミニサロン（年 6 回）
- ・ひとり暮らし高齢者・70 歳以上高齢者合同食事会（ぼけつと食事会を含む）（年 5 回）154 人 ボランティア 30 人
- ・さくらカフェ（年 18 回）1,251 人 ボランティア 108 人
- ・ひとり暮らし高齢者の会支援（さくら会）

【世代間交流】

- ・七夕訪問（朝日幼稚園）
- ・高齢者との合同食事会
- ・昔のくらし（朝日小学校 3 年生）ボランティア 4 にん

【その他】

- ・校区福祉委員会だより「山中溪校区ふくしだより」発行（年 2 回）
- ・地域美化活動（年 9 回）
- ・住民センター清掃活動（年 6 回）
- ・花の植え替え（年 4 回）

桜の開花時期に合わせた事業※コロナウイルスの影響で、中止

- ・山中分校での桜カフェ（1 週間）の開催
- ・地域住民の作品を展覧するふれあい作品展の開催

3-1-⑥ 尾崎校区尾崎地区福祉委員会

(1) 事業概要

地域担当職員が会議および活動に参加し、活動や組織運営への助言や事務支援、他機関との連絡調整などをおこないました。

(2) 実施内容・実績

【実施事業の内容】

要援護者の把握及び見守り・訪問活動として、民生児童委員を中心に福祉委員会メンバーとグループをつくり、年1回安心ダイヤル登録者を訪問しています。登録状況変更の有無の確認、救急キットの更新等を行っています。加え、敬老の日のお祝い活動やねたきり高齢者友愛訪問、小学生の登下校時の見守り活動等、さまざまな世代を対象としたきめこまかな見守り・訪問活動を行っています。

また、すべての住民を対象としたおざきカフェを地区内の住民センターで月1回開催しています。地域の人々の交流の場として定着してきており、毎月多くの人が訪れています。運営は女性、男性スタッフ各々が役割分担し協力しながら行っています。

地区内の未就学児、小学生や子育て世代等の交流の場として、おざきっ子夏まつりを開催しました。

【諸会議及び研修】

- ・総会（年2回）
- ・役員会（8月の臨時開催を含む毎月1回）
- ・ボランティアミニサロン（年2回）
- ・くらしの安心ダイヤル更新及びマップ作成作業（民生委員ブロックごと）

【実績】

(個別援助活動)

○くらしの安心ダイヤル活動

- ・年1回民生委員を中心に、登録者の情報の共有の会議開催と情報の更新のための個別訪問を行いました。

○ねたきり高齢者の友愛訪問、敬老の日お祝い（のべ8件）

(グループ援助活動)

○介護予防活動

- ・のびのび体操教室（年6回のべ103名参加）
- ・いきいき体操教室（年3回のべ34名参加）

○ひとり暮らし高齢者・80歳以上高齢者食事会（年4回146名参加）

- ・80歳以上高齢者食事会はひとり暮らし高齢者食事会と合同開催（年1回）
- ・施設やボランティア、尾崎幼稚園と連携。

○おざきカフェ（年10回369名参加）

- ・CSW や尾崎・東鳥取地域包括支援センター職員がカフェに参加し、身近な場でのさまざまな福祉の相談が対応できる体制を整えています。

(その他)

○尾崎小学校、尾崎幼稚園の児童との世代間交流（年4回のべ252名参加）

○おざきっ子夏まつりの開催

- ・子どもや子育て世代を対象にした新たな事業として実施し、盛況に開催することができまし

た。

- ・事業を通じて地区内の4自治会等各種団体との連携を図ることができました。

○小学生登下校時の見守り活動

- ・民生委員児童委員や福祉委員による子どもの安全見守り活動を実施。

○高齢者施設との協働及び交流事業の実施（年5回）

- ・地域の高齢者施設行事（夏祭り、盆踊り等）への協力。

3-1-⑦ 尾崎校区福島地区福祉委員会

(1) 事業概要

地域担当職員が会議および活動に参加し、活動や組織運営への助言や事務支援、他機関との連絡調整などをおこないました。

(2) 実施内容・実績

【実施事業の内容】

くらしの安心ダイヤル事業では要援護者の把握や地域とのつながりづくり、普段からの丁寧な個別電話活動を実施しています。毎月開催する役員会で登録者情報の変更を共有し、年1回民生委員が中心となり、福祉委員・ボランティアとペアをつくり、登録者ごとの安心ダイヤルの登録情報、マップ及び救急キットの更新を行っています。

また、4地区で地区別のサロン活動を展開し、身近な地域での居場所づくりの機能を果たしています。夏には高齢者と子どもたちが交流できるサロンを学生ボランティアグループ Smile と協働で開催しました。

加え、小学校の開校日には毎日児童の登校時見守り活動を実施し、子どもたちの安全を見守っています。見守り活動を通して子育て世帯とのつながりをつくるだけでなく、例えば安心ダイヤル登録者で認知症がある高齢者の見守り活動にもつなげています。

【諸会議及び研修】

- ・総会
- ・役員会（毎月1回）
- ・ボランティアミニサロン
- ・広報編集委員会会議
- ・福祉委員研修会
- ・地区別共有会議（くらしの安心ダイヤル情報及びマップ更新作業）

【実績】

(個別援助活動)

○くらしの安心ダイヤル事業

- ・毎週火・木・土曜日に、福祉委員会拠点より電話での安否確認を実施。（148回のべ528名）
- ・救急キット、登録情報更新訪問（のべ173名）

○地区別共有会議（くらしの安心ダイヤル情報及びマップ更新作業）

- ・各地域で民生児童委員を中心に福祉委員・ボランティアで支援者チームをつくり、要援護者の把握に努めています。
- ・拠点設置並びに携帯用のマップを改善。
- ・個人情報の取り扱いについての講座実施。

(グループ援助活動)

○カフェ・サロン活動（23回のべ373名参加）

- ・福島北住民センター（年3回）
- ・尾崎鉄筋住宅集会所（隔月第3月曜日）※ 夏には高齢者と子どもを対象にしたサロンを企画
- ・泉南尾崎団地（旧公団）集会所（年3回）
- ・マリンタウン福島住民センター（年4回）
- ・（新規）メンズモーニング（年6回）

- ほのぼの食事会・75歳以上高齢者食事会（年4回のべ90名参加者）
 - ・地域の高齢者施設や尾崎・東鳥取地域包括支援センター、ボランティア等と連携し事業を実施。
- 介護予防事業
 - ・いきいき健康教室（年4回49名参加）
 - ・こつこつゆうゆう（年10回のべ133名参加）
 - ・のびのび健康体操（年6回のべ89人参加）
- 子育てサロン「出前カンガルーポケット」（年5回のべ28名）
 - ・子どもNPOはらっぱと協働で開催。
 - ・福祉委員の手作りのお菓子を参加者と一緒に食べ、雑談をしてゆったりとした空間をつくっています。
- 朝の見守り活動（小学校 毎日午前7時30分～午前8時30分）
 - ・福祉委員会のユニフォームを着て行うことで、福祉委員会の活動の周知。
 - ・見守り活動を通して親世代との交流にもつながっています。
- 尾崎小学校の児童との世代間交流

（その他）

- 高齢者施設との協働及び交流事業の実施
 - ・地域の高齢者施設行事への協力。
- 社協セミナーでのくらしの安心ダイヤル事業の取り組み報告
- 他地区からくらしの安心ダイヤル事業の取り組み視察受入
 - ・柏原市社会福祉協議会
 - ・泉南市 CSW 2名
- その他

3-1-⑧ 西鳥取校区福祉委員会

(1) 事業概要

地域担当職員が会議および活動に参加し、活動や組織運営への助言や事務支援、他機関との連絡調整などを行います。

(2) 実施内容・実績

【個別援助活動】

ふれあい訪問と称した安否確認を意識した見守り活動を民生委員が中心となって行っています。

- ・くらしの安心ダイヤル活動
- ・80歳以上敬老お祝い
- ・見守り訪問活動

【グループ援助活動】

- ・のびのび健康体操 6回 延べ106人参加
- ・いきいき健康教室 3回 延べ41人参加
- ・高齢者食事会 4回 延べ229人参加
- ・にしの日カフェ(毎月24日 鳥取・新町住民センター)
シーサイド貝掛広場カフェ (毎月第一土曜日 シーサイド貝掛) 30回 延べ615人参加
- ・地域美化活動(海岸清掃) 4回 延べ53人参加

【世代間交流】 4回 延べ370人参加

- ・昔の遊び、昔のくらし、大根炊き、もちつき交流会

【その他】 12回 延べ386人参加

- ・チャリティーバザー
- ・ボランティア市民活動フェスティバル
- ・共同募金活動
- ・ミニサロン
- ・はーとりフェスタ等

3-1-⑨ 舞校区福祉委員会

(1) 事業概要

地域担当職員が会議および活動に参加し、活動や組織運営への助言や事務支援、他機関との連絡調整などを行っています。

(2) 実施内容・実績

あたごプラザを拠点とし、子育て支援から高齢者支援まで幅広い活動に取り組んでいます。また、平成30年から生活支援サービスを実施しています。

【諸会議及び研修】

- ・総会、役員会、校区長・事務長会議

【個別援助活動】

- ・くらしの安心ダイヤル活動、声掛け見守り活動
- ・非常ベル設置

【グループ援助活動】

- ・ふれあいの集い2か所(ビデオの上映) 24回 延べ504人参加
- ・ひとり暮らし高齢者食事会 4回 延べ245人参加
- ・のびのび健康体操 9回 延べ371人参加
- ・いきいき健康教室 2回 延べ116人参加
- ・子育てサロン「すくすくクラブ」 22回 延べ119人参加

【世代間交流】 5回 延べ277人参加

- ・昔の遊び
- ・さつまいも植え
- ・夏休みこども宿題デー

【その他】 39回 延べ452人参加

- ・ミニサロン
- ・舞グリーンフレンズ支援
- ・四季の歌
- ・ボランティアフェスティバル
- ・ちょっと気になる講座
- ・福祉委員・ボランティア合同研修
- ・校区福祉委員会だより「舞校区福祉だより」発行

【生活支援サービス活動】

- ・舞高齢者支えあい活動（舞シニアサポート：MSS）
サービス利用登録者：165名
サポーター：54名（うち、コーディネーター20名、福祉有償運転手19名）
（会議）コーディネーター会議12回
（支援内容）家事21回
草抜他79回
送迎431回

3-1-⑩ 下荘校区下荘地区福祉委員会

(1) 事業概要

箱作住民センターを拠点にした活動を展開しながら、小地域別の食事会やカフェもおこなっています。多様な団体と協働した子育て支援活動や親水公園・ロータリーの美化活動、介護事業所との連携の構築など、幅広い活動が定着しています。

(2) 実施内容・実績

【諸会議及び研修】

- ・委員会 1 回、役員会 13 回
- ・ボランティア連絡会 3 回
- ・高齢者把握に係る会議 1 回（地域包括・介護事業所と協働）

【個別援助活動】

- くらしの安心ダイヤル活動
- お元気ですか訪問（絵手紙） 12 回 456 人

【グループ援助活動】

- 小規模福祉作業所（ハートワークひだまり）と交流 7 回
- ひとり暮らし高齢者食事会 9 回 213 人（地区別活動含む）
- こつこつゆうゆう体操 10 回 208 人
- 子育て支援活動（すくすく塾）第2・4土曜 17 回 208 人
- まちなかサロン・カフェ
 - ・まちなかサロン華（住金団地）月 2 回 ・万葉サロン（万葉台）月 1 回
 - ・わいわいカフェ（貝掛）月 1 回

【世代間交流】

小学校・保育所 昔の生活、遊び、やきいも大会、地域清掃、下小まつりなど

【まちなか福祉活動】（※再掲）

- 小地域食事会（住金団地・万葉台・貝掛）
- 子育てサロンの地区別開催（貝掛）

【その他】

- 校区福祉委員会だより「こだま」2 回発行
- アドプト・プログラム：茶屋川親水公園・箱作駅ロータリー 12 回 301 人
- 委員・ボランティア合同研修
- びちびちビーチバレー全国大会への協力
- 赤い羽根共同募金 街頭募金

3-1-⑪ 下荘校区箱作地区福祉委員会

(1) 事業概要

各地区の住民センターを中心に活動を展開しています。地域性が異なる地区が点在しており、校区内1か所での活動から地区別の活動に移行し、各地区の福祉委員やボランティア、自治会やまちづくり協議会との協働のもと、身近な福祉活動を充実させています。

(2) 実施内容・実績

【諸会議及び研修】

- ・委員会1回、役員会7回
- ・ボランティアミニサロン4回

【個別援助活動】

- くらしの安心ダイヤル活動
- 各地区別くらしの安心ダイヤル情報共有会議（自治会・民生・福祉参加）1地区実施

【グループ援助活動】

- 小規模福祉作業所（ハートワークひだまり）と交流 17回 32人
- ひとり暮らし高齢者食事会 5地区9回 404人（地区別活動）
- のびのび体操 12回 232人
- まちなかサロン・カフェ
 - ・おしゃべりサロン、モーニングサロン（箱の浦） ・まちなかサロンいずみがおか
 - ・鴻和カフェ集い、モーニング

【世代間交流】

小学校 昔の生活、遊び、仲良しフェスタ、地域清掃、下小まつりなど

【まちなか福祉活動】（※再掲）

小地域食事会（いずみが丘・鴻和・箱の浦・南山中・田山）

【その他】

- 校区福祉委員会だより「てとてと」1回発行
- 委員・ボランティア合同研修
- 花の植え替え 住民センター7か所
- ぴちぴちビーチバレー全国大会への協力
- 赤い羽根共同募金 街頭募金

3-1-⑫ 桃の木台校区福祉委員会

(1) 事業概要

住民の交流、居場所づくりのためのカフェ活動や、健康・介護予防のための活動等に力を入れています。担い手のボランティアや趣旨賛同者も少しずつ増え、住民の希望に沿う活動展開を心がけています。委員の発案により毎年新規事業の実施にも力を入れています。+子ども福祉委員支援も積極的に行い、多様な世代向けの活動が広がっています。

特に令和元年度は、こつこつ体操、いきいき百歳体操にも取り組み、介護予防の取り組みが拡大しました。

(2) 実施内容・実績

【諸会議及び研修】

- ・委員会 6 回、役員会随時開催
- ・校区活動組織交流会 年 1 回

【個別援助活動】

- ・くらしの安心ダイヤル活動
- ・地域内の課題について話し合い 桃民会 3 回

【グループ援助活動】

- ・健口 de 笑歌 (けんこうでしょうか) 11 回 延べ 533 名参加
- ・子育てサロン (はらっぱ共催) 5 回 延べ 49 名参加
- ・ながつきの会 (敬老のつどい) 58 名参加
- ・のびのび体操 10 回 延べ 269 名参加
- ・こつこつ体操 10 回 延べ 214 名参加
- ・いきいき百歳体操 39 回 延べ 826 名参加
- ・桃の木カフェ (住民センターでのサロン活動) 12 回 延べ 732 名参加
- ・ビビッドカフェ 10 回 親子 64 組

【世代間交流】

- ・小学校 昔のくらし、あそび

【その他】

- ・健康チャリティフェスティバル (バザー、喫茶、団体出店等)
- ・子ども福祉委員支援事業

4-1 地域力強化推進事業

(1) 事業概要

厚生労働省のモデル事業を阪南市が受け、平成 29 年度 10 月より本会が受託しました。

地域住民や地域の多様な主体が地域生活課題を「我が事」としてとらえて、主体的に参画し解決していく仕組みづくりを進めます。

(2) 実施内容

①福祉を文化にプロジェクト

- ・市民に向けての学習会（共生の地域づくり推進事業の啓発等）計 14 回
- ・共生の居場所づくり（多世代交流と福祉学習）「ボッチャ楽しも会」10 回 地域出張ボッチャ 4 回 輪っとなアート DAY 1 回
- ・泉南学寮(少年院)のボランティア組織化とマッチング 院内活動 3 回、地域活動 3 回

②子ども福祉委員の創設

4 校/78 名(H30: 4 校 60 名) 貝掛中: 15 名/鳥取東中: 13 名/飯の峯中: 23 名/下荘小: 27 名
地域の困りごとと解決や地域活動の実施

- ・子どもボランティアサミットの開催 活動報告・ワークショップ 参加: 65 名
- ・「こどもの心を育む全国大賞」受賞 2 月

③子どもの居場所プロジェクト

- ・地域ぐるみで子どもを支える支援（学習支援、食事支援等）いずみ生協と食材支援協定
- ・子どもの居場所に関する情報交換会（※3 月予定も、コロナのため中止）

④多世代交流サロン

- ・共生型サロンきらきら、ライフきらきら運営支援
- ・既存のカフェサロン 4 か所で子どもや子育て世代の保護者が参加する企画を実施
- ・サロンカフェ支援の輪ミーティング開催 大学や専門職など 19 名

⑤地域福祉拠点づくり

- ・まちなかほっこり相談の設置・拡大（市内 13 か所）
- ・東鳥取地区拠点の創設支援（令和元年 11 月オープン）
- ・和歌山大学と協働した駅前拠点活用プロジェクト

⑥農福連携による地域活性化

- ・おにぎり会支援 地域包括と協働し、福祉委員会、波太学の子どもたち等のコーディネートを実施
- ・漁福連携 西鳥取漁業組合と泉南学寮との調整 カキ小屋ボランティア実施 包括等と協働した認知症つりプロジェクトの実施
- ・自然田での福祉農園の整備、実施への打ち合わせ ・コットンワークス 活動支援や調整

(3) 成果・評価

“我が事”の担い手づくりとして「子ども福祉委員」活動が広がりを見せました。令和元年度では 4 校 77 名となり、取り組みが評価され全国大賞を受賞しました。泉南学寮の取り組みも大きな注目を集めています。共生の地域づくり推進員が、ボッチャなど地域に出向いた支援もおこない、多世代がつながる地域づくりが進みました。

(4) 課題・今後の方針

次年度は生活支援体制整備事業と統合しますが、この事業で進めてきた多世代・多様な担い手・当事者の「参加」の視点をしっかりと継続する必要があります。また小中学生だけでなく、中高大学生なども含めた若い世代への取り組みをさらに拡大させていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
9,051,641 円	市受託金、助成金	平成 29 年度(10 月)

4-2 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

(1) 事業概要

厚生労働省のモデル事業を阪南市が受け、平成 30 年 4 月より本会が受託しました。世帯全体の複合化・複雑化した課題を包括的に受け止める総合的な相談支援体制づくりを支援し、推進していく事業です。

(2) 実施内容

①相談者等に対する支援の実施

- ・個別支援相談件数：計 123 件（内訳：新規相談 100 件、継続 23 件）

新規相談経路：本人・家族 26 件、行政 43 件、民 31 件

新規相談内容：生活困窮・家計見直しが必要な相談 53 件

身体的・精神的など体調に関すること 31 件

8050（80代の親と50代の子ども世帯）16件など

②相談支援包括化ネットワークの構築

- ・CSW連絡会を1ヶ月に1回実施（今年度12回開催）

参加者：各地区担当CSW4名、市民福祉課

- ・丸ごと連絡会を2～3ヶ月に1回実施（今年度4回開催）

参加者：CSW、生活支援課（生活困窮者自立支援）、地域包括支援センター、学校教育課、

SSW、市民福祉課、阪南市社会福祉協議会、まつのき園の8機関

③市が進める庁内連携推進体制構築への協力

- ・2ヶ月に1回の庁内連携推進会議へ出席（今年度6回開催）

市役所8部16課出席

④生活困窮者自立支援制度における市が主催の支援調整会議への出席

- ・1週間に1回開催（今年度37回出席）

⑤ひきこもり支援体制の構築

- ・泉鳥取高校にて不登校、ひきこもりについて職員会議の場で話を行い教師との連携を図る

- ・尾崎公民館主催のひきこもり講座に協同（講座7回開催）

- ・丸ごと連絡会より部会を設置：ひきこもり部会（今年度2回開催）

参加者：保健センター、学校教育課、生涯学習課、子ども政策課、子ども家庭課、まつのき園、市民福祉課、社協

- ・ひきこもり部会からひきこもり支援草の根ネットワークを設置（今年度5回開催）

参加者：当事者、当事者家族、地域住民、NPO法人、事業所、学校教育課、学校教諭、市民福祉課、社協など、様々な方が参加

(3) 成果・評価

個別相談では、様々な悩みを抱えた123件の相談を受け止めることができました。

基幹型CSWとして平成30年度より月1回CSW連絡会を開催することにより、個別課題や地域課題を共有し、互いに解決に向けた話し合いをすることができました。

また、丸ごと連絡会では公民が抱える福祉課題を共有することにより共通する課題が見え、課題ごとで話し合える部会（ひきこもり部会）を設置することができました。部会から当事者も参加できるひきこもり支援草の根ネットワークを設置し、よりよい話ことができました。庁内連携推進会議では、縦割りであった行政の課を超えて“丸ごと”取り組む仕組み作りの必要性を共有でき、課題ごとでグループ分けをすることで、各課での必要な課題が整理できました。

(4) 課題・今後の方針

令和元年度でこの事業が終了するにあたり、丸ごと連絡会で取り組んできた課題整理や部会の開催などが継続できない課題が残ります。

CSW連絡会、庁内連携推進会議など市が主催する会議で、今後も引き続いて不登校やひきこも

り支援に対しての取り組みを行っていくとのことです。今後は、生活困窮者自立支援事業へ移行し、市と協同しながら、経済的にも社会的にも孤立しないように支援を行っていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
4,545,000 円	市受託金	令和元年度

5-1 阪南市介護者(家族)の会支援事業（当事者組織支援事業）

（１）事業概要

介護に関して、同じ状況にある人同士が集まり、悩みの共有や課題解決に向けた学習等、情報発信をする当事者組織の組織化や運営支援を行う。

（２）実施内容・実績

- ・つどい、リフレッシュ事業、施設見学等 25 回 408 名参加
- ・介護者だより発行 3 回 1,430 部配布
- ・役員会、街頭募金、パネル作成等 5 回 29 名参加
- ・泉州ブロック活動交流会 3 回 50 名参加
- ・他市町の総会等 5 回 8 名参加
- ・大阪府介護者（家族）の会活動 10 回 19 名参加

（３）成果・評価

- ・上記事業を通して、介護者の心のよりどころとなり精神面で支えることができました。
- ・泉州ブロック交流会や大阪府連絡会に出席することで、他市町村の介護者（家族）の会とのつながりができ、情報交換を行うことができました。
また、今年度から大阪府介護者（家族）の会連絡会へ会長として参加し、府下全体の抱える課題解決に取り組むことができました。
- ・認知症カフェ「ぬくぬく」へも積極的に参加し、会員以外との情報交換も広がりました。
- ・つどいでは、席配置をグループ形式にすることでつどい後の交流会や話し合いが盛り上がり、会員同士の十分な交流を図ることができました。
また、地域包括支援センターの職員や医療ソーシャルワーカーが参加され、専門的な視点での助言をもらい、つながりも構築できました。
- ・マスターズカフェの運営支援や介護相談を出張開催することで、相談が増えました。

（４）課題・今後の方針

- ・看取り会員が増え「介護予防」を重点的に取り組まれる会も増えつつある中、本来の目的である「介護の悩みを持つ当事者同士が情報を共有し、励まし、助け合い解決していくこと」を意識して取り組む。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
50,000 円	赤い羽根共同募金配分金	昭和 62 年度

5-2 きらめきアート作品展（当事者組織支援事業）

（1）事業概要

これまでの「シニア・障がい者いきいき創作展」から名称を改め、様々な世代の方々が、障がいの有無・年齢・性別も関係なく、作品の展示発表やイベントを通じて、特技を生かす、キラキラ活躍できる、新たなチャレンジができることにより『誰でも特技を活かして輝ける場』を目的とする。

また、期間中に創作イベントとして「輪っと！アート DAY」を開催した。

（2）実施内容・実績

きらめきアート作品展

開催場所：地域交流館 2 階 3 階

開催期間：2020 年 1 月 30 日（木）～2 月 4 日（火）9:00～17:00

来場者数：計 327 名（昨年度サラダホールにて開催：377 名）

出展者数（個人・事業所）：27 名・団体（昨年度：20 名・団体）

令和元年度 広報「ふくしはんなん」へ事業紹介の掲載（1 回）

準備・片づけは、各校区（地区）福祉委員会へ 1～2 名の協力依頼。

輪っと！アート DAY

開催期間：2020 年 2 月 1 日（土）

参加者数：こども 10 名、大人 12 名（うち福祉委員 1 名、事業所から 7 名）

内容：参加者みんなで大きな桜の木を創った。

桜のイラストにそれぞれ色を塗ってもらい、絵を創りあげた。

ボッチャ体験コーナーを設け、ボッチャの魅力を周知した。

（3）成果・評価

今年度の様子

- ・今年初めて出展いただいた個人・事業所が多かった。12 名・団体
- ・個人作品も 6 名の出展があった。（昨年度 2 名）
- ・出展団体だけでなく近隣の保育所から児童と職員も来場されていた。

参加者の声

- ・こんな素晴らしい作品があることをもっと知ってほしいとおもいました。
- ・サラダホールではなくなりましたが、交流館で継続してくださって本当に良かったです。

（4）課題・今後の方針

今年度から市の会場費負担がなくなり、はじめての地域交流館での開催となった。展示する部屋や受付の検討など細かな改善点も見つかった。次年度は、施設や団体も巻き込み開催していく。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
0 円		平成 4 年度

6-1 日常生活自立支援事業

(1) 事業概要

認知症、知的障がい、精神障がいなどがあることで、自身での意思決定などに不安がある方ご本人と契約を行い、権利を護る相談に対応します。また、関係機関と連携を図り、できる限り本人の力で住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、在宅福祉サービスの利用や日常的な金銭管理、大切な通帳等の保管を中心とした支援を行います。

(2) 実施内容・実績

- ・制度についての問い合わせ 新規相談対応
- ・契約、支援計画変更、契約終了手続き
- ・支援計画に基づいた生活費等の金融機関での入出金
- ・訪問、来所による生活費等の手渡し
- ・家賃、光熱費等の支払・振込対応
- ・利用者さんからの相談対応 関係機関との連絡調整
- ・市役所等での手続き書類作成のお手伝い
- ・通帳や証書の預かりサービス
- ・上記にかかる書類の作成及び整備
- ・大阪後見支援センターへの定期的な契約内容の報告

契約者の利用内容	R 元年度	H30 年度
福祉サービスの利用援助	59	62
日常の金銭管理	54	60
通帳、証書類他書類の保管	25	14

相談・ 支援件数	R 元年度		H30 年度	
	相談等	支援	相談等	支援
認知症高齢者	544	492	962	653
知的障がい者	796	630	1,324	747
精神障がい者	817	548	1,341	594
その他	6	0	13	0
合計	2,163	1,670	3,640	1,994

契約締結・ 終了件数	R 元年度		H30 年度	
	締結	終了	締結	終了
認知症高齢者	1	8	3	6
知的障がい者	6	6	2	2
精神障がい者	6	2	1	1
その他	0	0	0	0
合計	13	16	6	9

(3) 成果・評価

- ・利用者の相談に応じ、安心して生活を送るための支援を継続し行うことができました。
- ・利用者の状況に応じ、成年後見人への移行を行い、関係機関への引継ぎや親族への保管物品の返還を行いました。また、介護保険課・地域包括支援センターとの連携により、成年後見制度市長申立てを経て後見人の受任へと移行ができました。
- ・昨年度 16 名いた待機者と契約、成年後見制度へのつなぎ等をおこない、今年度の待機者ゼロを達成することができました。

(4) 課題・今後の方針

- ・障がい者の相談契約件数の増加に伴い、電話対応や支援回数も増加しており、本人の状況に応じ、関係機関とのさらなる連携・役割分担により支援していく必要があります。
- ・生活困窮者自立支援事業との連携し、福祉サービス利用援助の利用者には家計簿を付けるなど、通帳を預かっていない利用者への支援内容を充実する必要があります。
- ・窓口対応、電話対応、訪問回数、金融機関での入出金対応など業務量が多く、相談に時間を要するため、専門員・生活支援員の支援体制の充実が求められます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
8,964,000 円	市補助金、府社協受託金、利用料収入	平成 12 年度

7-1 福祉資金貸付事業

(1) 事業概要

「生活福祉資金貸付制度」は、低所得者や高齢者、障がい者の生活を経済的に支えるとともに、その在宅福祉及び社会参加の促進を図ることを目的とした貸付制度です。

この制度は、大阪府社会福祉協議会が実施主体となり、阪南市では本会が本市在住の住民を対象に窓口となって実施しています。

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等に対し、世帯単位でそれぞれの世帯の状況と必要に合わせた資金の貸付を行います。

また、本貸付制度では、資金の貸付による経済的な支援にあわせて、資金の種類によっては地域の民生委員が資金を借り受けた世帯の相談支援を行います。

生活困窮者自立支援制度の施行に伴って、総合支援資金と緊急小口資金の貸付にあたっては、生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業の利用を貸付の要件となり、連携が図られています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 貸付相談等の窓口対応
- 各種貸付制度のホームページ等での周知PR
- 生活困窮者自立支援機関等関係機関等と連携した支援体制の構築

【実績】

■ 生活福祉資金等の延べ件数

対応内容	電話対応	窓口対応	申請書配布	自立支援機関との連携	償還対応 (電話相談)	償還対応 (窓口相談)	実績計
件数	328 件	141 件	47 件	114 件	29 件	6 件	665 件
(参考) 昨年度	211 件	113 件	31 件	36 件	17 件	8 件	416 件

(福祉資金等延べ件数)

○ 福祉資金

対応内容	電話対応	窓口対応	申請書配布	自立支援機関との連携	償還対応 (電話相談)	償還対応 (窓口相談)	実績計
件数	131 件	53 件	11 件	16 件	19 件	4 件	234 件

○ 教育支援資金

対応内容	電話対応	窓口対応	申請書配布	自立支援機関との連携	償還対応 (電話相談)	償還対応 (窓口相談)	実績計
件数	34 件	21 件	7 件	7 件	5 件	1 件	75 件

○ 緊急小口資金

対応内容	電話対応	窓口対応	申請書配布	自立支援機関との連携	償還対応 (電話相談)	償還対応 (窓口相談)	実績計
件数	163 件	67 件	29 件	91 件	5 件	1 件	356 件

○ 不動産担保型生活資金

対応内容	電話対応	窓口対応	申請書配布	自立支援機関との連携	償還対応 (電話相談)	償還対応 (窓口相談)	実績計
件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

■ 総合支援資金等の延べ件数

対応内容	申込書配布	相談対応	自立支援機関との連携	償還延長対応	償還猶予対応	実績計
件数	2件	2件	1件	1件	0件	6件
(参考) 昨年度	1件	7件	4件	0件	0件	12件

(3) 成果・評価

- 生活困窮者自立支援機関や社会貢献事業を実施する社会福祉法人等の関係機関と連携した支援に努めました。

(4) 課題・今後の方針

- 相談があっても申請に至らないケースもあり、結果的に相談者にとって成果をえられないことがあります。そのような場合でも相談者の心理的な負担を和らげ、相談者の心に寄りそえる相談支援や窓口対応に努めます。
- 本制度の申請につながらない場合、状況に応じて、他制度へ案内し、スムーズつながるよう市役所や社会貢献事業を実施する社会福祉法人等の関係機関との連携をより推進します。
- 相談者世帯のその後の状況把握に努めるため、世帯への継続した支援につながるような支援チームづくりを検討します。生活困窮自立支援機関を軸とした市役所や民生児童委員、社会貢献事業、コミュニティソーシャルワーカー等各種関係者及び機関と連携を進めます。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
2,604,000 円	府社協受託金	昭和 56 年 4 月

8-1 生活支援・介護予防事業サービス協議体運営事業（市受託事業）

（１）事業概要

介護保険制度の改正に伴い配置された協議体の運営と第一層及び第二層生活支援コーディネーターを受託します。実施にあたっては、住民の主体性を尊重し、ニーズや資源の実態を把握して、協議のもと、地域に必要なサービスや住民相互の支え合い活動を創出するよう取り組みます。

（２）実施内容・実績

◆多様な団体同士が話し合う場（協議体）の運営

- ・協議体 5 回、協議体事前会議 6 回
- ・地域ニーズの共有や新たな社会資源の開発について議論する協議体や協議体運営会議では積極的な情報交換をおこないました。

◆協議体内にテーマを絞って話し合う部会を 3 つ設置、運営。

- ・市民への啓発チーム会議 1 回、従事者研修チーム会議 2 回、移動外出支援チーム会議 2 回
- ・担当チームで協議を行うことで、より密に事業の実施をしていくことができました。

◆生活支援に関する相談・対応件数

第 1 層生活支援コーディネーター		第 2 層生活支援コーディネーター(東園域)		第 2 層生活支援コーディネーター(西園域)	
相談：123 件	対応：237 件	相談：175 件	対応：1,078 件	相談：221 件	対応：709 件

- ・地域活動をしている団体や支え合い活動に興味のある個人と地域の課題解決に向けた話し合う場を設け、ネットワークを構築し、社会資源の創出をおこないました。また、生活支援のニーズに対し、マッチングをおこないました。（子ども福祉委員による生活支援 等）

◆学びの場づくり

- ・移送の仕組みや地域活動の実践を学ぶ「阪南市移動支援学習会」を企画しましたが、コロナウイルス流行のため開催は次年度へ延期とします。
- ・地域の活動者を養成する第 3 層生活支援コーディネーター養成研修を開催しました。参加者 8 名。

（３）成果・評価

- ・地域住民の想いに寄り添い、丁寧に支援してきたことで住民主体の活動に広がりが見られます。活動の立ち上げ支援だけでなく、地域活動者の悩みや相談に乗り、活動を継続していくための支援(話し合う場づくり、ニーズの代弁等)もおこなっています。地域づくりを専門職主導で進めず、住民主体の理念に基づき活動の支援をすることで、やらされ感のない、住民の想いが詰まった支え合い活動、地域づくり(総合事業)を阪南市で進めることができました。
- ・第 3 層生活支援コーディネーター養成研修を開催し、互いに支え合う重要性や総合事業の施策、生活支援コーディネーターの活動について知ってもらうことができました。参加者から「当初は町内会の役に立てばと思っていましたが、それとは別に個人的に講習を受けてよかったと思います。」「内容が豊富。永久保存版として何度も見直せる資料の中身」との感想があり、地域づくりへの意識の変化がみられました。
- ・月に 1 回開催している阪南市自立支援型事例検討会（ミナデジレイ α）に参加し、ケアマネジャーへ社会参加の視点から助言をおこないました。本人の望むことや課題の見極め、つながりの構築方法や社会参加の場を生活支援コーディネーターの視点から紹介し、一人でも多くの方が自立し活躍できるような阪南市の地域づくりを多様な専門職と共に進めました。

（４）課題・今後の方針

- ・具体的な移動・外出支援の仕組みをつくっていく必要があります。そのために、今年度開催できなかった移動支援にテーマをしばった学習会を今後開催していきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
11,240,538 円	市受託金、研修参加費	平成 28 年度

9-1 地域介護予防事業（市受託事業）

（１）事業概要

阪南市より委託を受け事業実施しています。

元気な高齢者を対象にした、生活機能の維持または向上を図るための事業です。介護予防の意識を高めるため、各校区（地区）福祉委員会等の協力を得て、身近な地域での体操教室や、サロンなどに出張して栄養教室を開催しています。

（２）実施内容・実績

プログラム	委託先	実施回数	実績
こつこつゆうゆう体操	和歌山YMCA	<u>43回</u> （5コース）	延べ参加人数 <u>820人</u>
のびのび体操	谷川 直美 （市内福祉事業所）	<u>67回</u> （13コース）	延べ参加人数 <u>1,493人</u>
出張栄養教室	はつらつ尾崎地域栄養士会	<u>7回</u>	延べ参加人数 <u>213人</u>
お口の体操教室 －歌のサロン－	ライフケア尾崎	<u>11回</u>	延べ参加人数 <u>94人</u>
地域回想法教室	回想法グループ 「スイートピー」	<u>4回</u>	延べ参加人数 <u>73人</u>

（３）成果・評価

各教室ともアンケート結果において“満足度”がとても高くなっています。こつこつゆうゆう体操では、元気な方のみではなく、体力低下を自覚している方にも効果のある体操になっています。専門の講師に筋肉の構造などくわしく説明されながらの体操で効果も高まっています。のびのび体操では、介護事業所の講師ならではの経験談を語ることで参加者のやる気を引き出すことにつながり、頭の体操も取り入れ、「また参加したい」という参加者の声が多くなっていました。

出張料理教室では、身近な地域のサロンカフェや食事会などの機会に合わせて実施しました。栄養士による、元気に生活していく上で必要な栄養素、食事のとり方、果物を摂取するタイミングなどのお話は参加者にとって身近で関心のあることが多く、熱心に聞き入っている姿や質問する姿が多く見られました。

歌のサロンでは、ただ歌うだけではなく、「お口の体操」を意識させ、初回には言語聴覚士からの講話で口腔機能が低下しないことがなぜ大切かというお話をいただき、より必要性を感じていただきながらの教室となりました。最終回には、口腔機能の体力測定を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で歌のサロンが中止となり、実施できませんでした。

地域回想法教室では、昔懐かしい記憶を呼び起こしながらみんなで話し合うことで、どんどん思い出話に花が咲き、交流が深まるきっかけになりました。レクリエーションのゲームなども加味することで大いに盛り上がり、アンケートからも「とても楽しかった」という声が多数聞かれました。

（４）課題・今後の方針

介護予防の成果を客観的な数字で評価することは難しいですが、参加者がいつまでも元気で過ごせるように、教室実施期間中だけでなく、日頃の習慣として家でも取り組めるような働きかけをさらにしていきたいと思います。「介護予防」という言葉から高齢層に年齢が限定されがちですが、40～50代など若い世代にも積極的に参加を促し、真の意味で「介護予防」につなげていきたいと思っています。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
3,300,000 円	市受託金	平成 21 年度

10-1 善意銀行事業

(1) 事業概要

善意銀行事業は、市民のみなさんからお預かりした善意のこもった寄付金や物品を、必要としている人や活動につなげることで地域福祉の増進を図る事業です。

お受けした寄付については、年4回発行の広報紙「ふくしはんなん」で報告しています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 窓口での寄附金品の受け取り
- 指定先への払出し
- 本会広報紙「ふくしはんなん」での実績の掲載 等

【実績】

■ 延べ件数 112 件

- 寄付金

件 数：105 件（前年度：134 件）

実 績：14,488,017 円（参考）前年度：14,787,421 円（大口1件含む）

（内 訳）

指定寄付先	件 数	実 績
校区（地区）福祉委員会	72 件	960,000 円
その他の団体	2 件	23,210 円
阪南市社会福祉協議会	31 件	13,504,807 円

- 物品等

件 数：7 件

実 績：ストロー、イス2脚、コーヒーカップ（6客2組、2客2組）、自転車、車イス、コンパクトホットプレート、セラミックコート鍋セット、土地15筆建物1戸”

（内 訳）

指定寄付先	件 数
校区（地区）福祉委員会	0 件
その他の団体	1 件
阪南市社会福祉協議会	6 件

(3) 成果・評価

- 公正証書遺言による高額寄附は1件を含む、多くの寄附を受け賜りました。

(4) 課題・今後の方針

- 件数が年々減少傾向にあることから、市民に対して、この事業が果たす役割をよりわかりやすく発信するため、事業のパフレット等の作成を検討し、寄付が文化として定着するように努めていかないとはいけません。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
104,000 円	事業収入・手数料収入	昭和 56 年 4 月

11-1 阪南市地域交流センター「ふれ愛ホーム」

(1) 事業概要

「ふれ愛ホーム」は本会定款で基本財産として定められており、本会が社会福祉事業を実施するための大切な拠点となっています。

一方で、時代に応じその役割を変えてきており、阪南市地域交流館の市からの指定管理に伴う本会の事務局機能及び地域福祉活動やボランティア活動の支援拠点の移転により、従来の貸部屋を通したそれら活動の支援の役割は一旦終わりました。

その後は、阪南市を中心とした子育て支援を行なう特定非営利活動法人「子どもNPOはらっぱ」に施設の一部を貸出すことで地域福祉推進に寄与しています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 施設の一部を貸し出し、特定非営利活動法人「子どもNPOはらっぱ」が取り組む子育て支援活動等への支援を図りました。

【実績】

- 子育て支援団体活動拠点の提供を行いました。
- 男子トイレ（手洗い水栓取換・小便器センサー修理）や照明器具の修繕を行いました。

(3) 成果・評価

- 本会の基本財産を子育て支援の拠点として活用しました。

(4) 課題・今後の方針

- 阪南市内で取り組まれているボランティア活動団体の拠点として本施設を活用することができないか、あらためて検討を図ります。
- 施設の設備に老朽化している部分があり、今後修繕の費用が必要になってくると見込まれます。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
624,000 円	施設賃借料	平成 15 年 7 月

12-1 地域交流館管理運営事業

(1) 事業概要

阪南市より第2期指定管理契約（平成29年度～平成33年度）を受け事業実施しています。

阪南市地域交流館において、地域福祉活動、生涯学習活動、社会教育活動（尾崎公民館）、NPOなど市民公益活動（市民活動センター）のそれぞれの活動を支援するとともに相互に連携を図るため拠点機能・調整役機能を最大限に発揮して業務を行います。

(2) 実施内容・実績

業務	実績（内容）
尾崎公民館、市民活動センター、社会福祉協議会による定例連絡会議の開催	月1回会議を実施することで、三団体が円滑に情報共有することが出来ました。
総合情報コーナーの設置・情報の掲示	社会福祉、防災、ボランティア等に関する情報や、市民活動センター、尾崎公民館の情報を集約・掲示等し、阪南市地域交流館の利用者や市民が、交流や情報交換を図れる場として開放しました。
カフェはなていの運営	地域交流館の利用者をはじめ、地域の人など広く市民が交流出来る場として利用していただきました。（年間実績のべ2,769杯）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、貸室中止に先行して、2月26日（水）から3月31日（火）までカフェ運営休止（ボランティア・市民活動フェスティバルも中止で出店なし）
まちライブラリーの設置	地域交流館1階 カフェはなてい内に設置。総合情報コーナーやカフェはなてい利用促進のため、書籍を自由に閲覧・貸し出しできるようにしています。
本会事業を通じた地域交流館のPR	① 「きらめきアート作品展」（従来のシニア・障がい者いきいき創作展）の地域交流館での開催によるPR ② 認知症理解啓発および認知症支援の事業でのPR ③ 当事者団体の拠点支援によるPR
地域交流館の共用会議室および体育施設の使用許可に関する業務および利用料金徴収に関する業務	【貸館実績（のべ数）】 共用会議室 1～4 897件（前年比86%）11,849人利用 体育施設 444件（前年比85%）12,110人利用 合計 1,341件 23,959人利用 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月5日（木）から3月31日（火）まで貸室中止
施設管理業務の適正かつ効率的な実施（委託先） ① エレベーター点検、調整業務 ② 消防用設備等定期点検業務・防火対象物定期点検業務 ③ 電気工作物定期点検業務	① 三菱電機ビルテクノサービス株式会社による毎月のリモート点検・年4回の作業点検 ② 有限会社阪南防災による消防用設備等定期点検年2回・防火対象物定期点検年1回 ③ 根無電気設備管理事務所による毎月の点検と年1回の法定点検

④ 簡易専用水道管理業務	④ 株式会社ユニテックスによる年1回の点検
⑤ 自動扉保守点検業務	⑤ ナブコドア株式会社による年4回の点検
⑥ 敷地内・施設内の案内・巡回業務	⑥ 公益社団法人シルバー人材センターからの派遣による施設管理・夜間管理・清掃業務

(3) 成果・評価

地域交流館管理運営事業の貸館実績において、共用会議室・体育施設の利用件数は、平成30年度はのべ1,560件、2019年度はのべ1,341件、前年比86%に減少しました。

共用会議室・体育施設の利用に対する収入金額は、平成30年度は1,055,400円、2019年度は955,500円、前年比91%に減少しました。

この実績結果は、令和3年3月新型コロナウイルス感染拡大防止策として、阪南市の要請を受け貸室休止（令和2年3月5日～3月31日）としたことが原因と考えられます。また、2019年度は、令和天皇の即位の関係で祝日が重なったこと、「きらめきアート作品展」を全館使用して開催（令和2年1月30日～2月4日）したことも影響しているかと思われます。ただ、件数は86%減に対して、収入金額が91%減という結果から、有料利用が増加しているといえます。

一方で、本会事業の「きらめきアート作品展」では多くの来場者を迎え、地域交流館をPRすることができました。また、令和元年6月には体育施設を利用した「おかちよマーケット（手作りマーケット）」の開催を支援し、親子や若い世代など、幅広い層が当館を訪れました。

また、経費の面では、貸館業務に必要な申請書の簡易化を図り印刷製本費を大幅に削減も検討しました。

敷地内・施設内の案内・巡回業務に関しては、その一部の業務を公益社団法人シルバー人材センターへ委託し安全・安心の確保や事故防止に努めました。

館内の清掃業務に関しては、利用者が快適に施設を利用出来るよう清掃業務を行いました。

(4) 課題・今後の方針

2019年度は委託料が年間10,514,000円だったところ、令和2年度は11,457,000円と約9%増となっています。ただし、働き方改革による人件費など経費の増加、経年劣化による施設の修繕等の影響で、支出増加は必須です。また、新年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止で貸室休止が継続することから、収入の減少は避けられません。貸室が再開した後は、一層の貸館収入の確保等に尽力する必要があります。

令和2年度も引き続き、公益社団法人シルバー人材センターに委託する施設管理の時間数を減らし（月曜日朝の勤務を削減）経費削減を図り、代替の業務を職員で補います。

また、多くの市民に親しまれる施設として、職員は、利用者対応・接遇などに必要な技術取得に努め、サービスの質の向上、利便性の向上を図ります。障がいのある方、高齢者も含め、すべての方が安心・安全、そして快適に利用できるよう、ハード・ソフト両面での顧客満足度向上をすすめます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
11,586,548 円	市指定管理料 利用料等	平成26年度 （第1期受託） 平成29年度 （第2期受託）

13-1 赤い羽根共同募金運動（一般募金）（共同募金協力事業）

（１）事業概要

社会福祉法では、地域福祉推進に係わる規定が設けられ、その中に位置づけられた共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に向け、民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。

本会は阪南地区募金会として、阪南市内での本運動の推進に取り組んでいます。

（２）実施内容・実績

【実施事業の内容】

10月1日から12月31日までの3か月間、校区（地区）福祉委員会や自治会、学校・幼稚園等各種団体および企業のご協力を得て取り組みました。

本会（阪南地区募金会）が取り組んだ募金の種別は、主に以下のとおりです。

○戸別募金

自治会等の協力を得て、地域の各家庭へ募金を呼びかけました。

○街頭募金

校区福祉委員やボランティア等の協力を得て、街角や人の集まる場所で募金を呼びかけました。

○法人募金

福祉委員会の協力を得て、企業等に寄付を依頼しました。

○職域募金

社協内部と阪南市役所にて募金を依頼しました。

○学校募金

学校・幼稚園において生徒・児童に募金を呼びかけました。

○バッジ募金

公募されたデザインのバッジを1個500円で頒布しました。

【諸会議及び研修】

○9月に開催した校区（地区）長・事務長会議にて協力依頼

【実績】

令和元年度募金実績合計額 3,196,592 円

(参考)

平成30年度募金実績合計額 3,080,083 円

(内訳)

種 別	金 額
戸別募金	2,157,374 円
法人募金	390,000 円
学校募金	112,246 円
職域募金	10,538 円
街頭募金	145,202 円
バッジ募金	284,000 円
その他	97,232 円

（３）成果・評価

○校区（地区）福祉委員会、自治会等をはじめとした各種団体の協力を得て、様々なかたちで、共同募金運動に取り組みました。また、子ども福祉委員も街頭募金へ参加しました。

（４）課題・今後の方針

○今後も、地域福祉を進めるための貴重な財源としてこの事業があり続けるため、引き続き市民への周知や理解が広がるよう、取り組み方法の改善等含め検討していく必要があります。

13-2 歳末たすけあい運動（共同募金協力事業）

（１）事業概要

社会福祉法では、地域福祉推進に係わる規定が設けられ、その中に位置づけられた共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に向け、民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。

本会は阪南地区募金会として、阪南市内での本運動の推進に取り組んでいます。

（２）実施内容・実績

【実施事業の内容】

12月の歳末期に、校区（地区）福祉委員会等各種団体の協力を得て、街頭募金に取り組みました。

○街頭募金

校区（地区）福祉委員やボランティア等各種団体のみなさまの協力を得て、街角や人の集まる場所で募金を呼びかけました。

【諸会議及び研修】

○11月に開催した校区（地区）長・事務長会議にて協力依頼

【実績】

○令和元年度募金実績

区 分	金 額	（参考）昨年度金額
前年度繰越額	18,799 円	14,673 円
当該年度実績額	111,618 円	124,126 円
計	130,417 円	138,799 円

【配分】

○12団体 12活動 配分額計 120,000 円

【翌年度繰越額】

○10,417 円（＝募金実績額計－配分額計）

（３）成果・評価

○平成 26 年度より取り組みはじめ、今年度は障がい者の歳末行事や子どもたちのクリスマス会、地域での世代間交流（もちつき等）等のさまざまな活動に活用しました。残額 10,417 円は全額を大阪府共同募金会に送金し、次年度歳末たすけあい運動で集まった募金額と合わせて、次年度の配分金として活用します。

○昨年度に引き続き、今年度も阪南市で活動するボーイスカウトの子どもたちによる街頭募金活動が実施されました。

（４）課題・今後の方針

○集まった募金がより有意義かつ様々な活動に活用されるよう、広報に努めてまいります。

14-1. 総合相談支援業務（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

身近な圏域でのワンストップの総合相談窓口として、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員、認知症地域支援推進員等の専門性を活かし、高齢者を中心とした全ての住民の相談支援および訪問相談業務を行い、課題把握をします。その際、本会の特性と実績を活かし、様々な地域でのインフォーマル資源や多様な関係機関とのつながりを意識した対応を行います。

圏域内には、5つの校区（地区）でまちなかサロン・カフェや小地域ネットワーク活動が実施されています。できるだけ身近な場所で高齢者の困りごとを把握できるよう、これらのサロン・カフェ等と連携し、職員による出張相談を実施します。出張相談では、直接困りごとの相談を受けるとともに、校区（地区）福祉委員や民生委員等が把握している高齢者に関する情報もあわせてキャッチします。

（２）実施内容・実績

○相談件数…4, 226件 以下、グラフを参照

（３）成果・評価

○昨年度に引き続き民生委員やカフェ・サロン、校区福祉委員など、地域からの相談件数が増えていることもあり、相談件数が年々増加しています。

また、個々の相談に対して、普段の見守りや個別の支え合い会議を通じ、専門職と地域の方々とが協働して支えあうような事例が増え、制度を超えた地域での見守り支援につながっています。

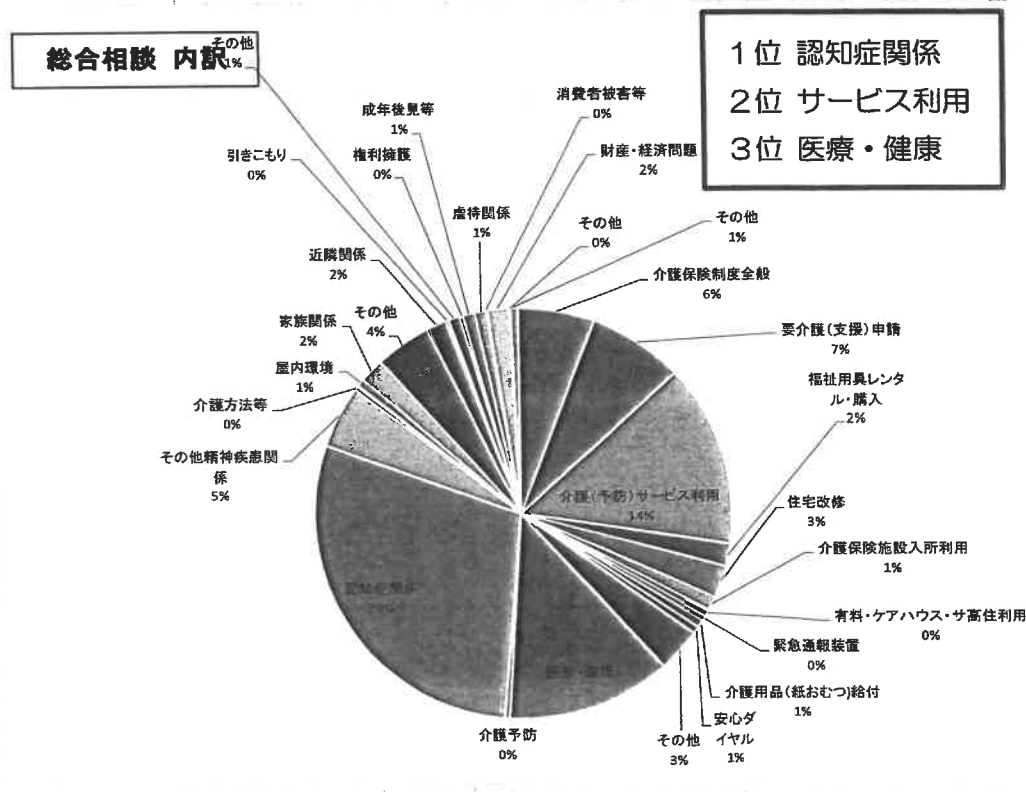
○世帯として複合的な課題のあるケースに対しては、コミュニティワーカー、ケアマネジャー、障がいや生活困窮等の行政担当課と協働することで役割を分担し、総合的な支援ができるような体制整備も行っています。また、地域活動などのインフォーマルサービスへの繋ぎを意識した支援を行っています。

（４）課題・今後の方針

○今後はさらに地域で展開されているまちなかカフェやサロン等へ多専門職とも一緒に積極的に出向きながら、困りごとの把握や発掘に向け地域と協働した取り組みを目指していきます。

西鳥取・下荘地域包括支援センター
総合相談相談件数(2019年度年間合計)

		西 延件数	西鳥取	舞 舞	下 荘	箱 作	桃の木台	市外・不明(西)
相談 区分	介護保険制度全般	244	27	87	80	28	15	7
	要介護(支援)申請	312	38	140	86	23	15	10
	介護(予防)サービス利用	604	108	211	175	57	46	7
	福祉用具レンタル・購入	75	25	22	17	9	2	0
	住宅改修	107	11	46	42	6	2	0
	介護保険施設入所利用	47	3	8	10	24	2	0
	有料・ケアハウス・サ高住利用	21	2	6	8	3	0	2
	福祉 サ ー ビ ス	緊急通報装置	18	2	4	7	2	0
		介護用品(紙おむつ)給付	27	7	18	2	0	0
		安心ダイヤル	24	3	16	1	2	0
		その他	146	4	114	21	3	1
	医療・健康	534	18	128	177	187	19	5
	介護予防	15	1	7	5	1	1	0
	認知症 (精神疾 患)関係	認知症関係	1229	108	359	450	132	46
		その他精神疾患関係	210	19	102	31	18	32
	介護方法等	13	2	6	2	0	2	1
	家庭環境 等	屋内環境	27	5	11	4	6	1
		家族関係	80	17	24	27	8	3
		その他	187	22	96	27	29	7
	社会生活 関係	近隣関係	67	10	13	4	8	32
		引きこもり	9	0	4	1	3	0
		その他	37	4	12	14	3	3
	権利擁 護事 業	権利擁護	11	2	2	0	6	0
		成年後見等	40	2	12	13	10	1
		虐待関係	39	3	1	30	0	3
		消費者被害等	3	2	0	0	1	0
		財産・経済問題	72	6	1	6	58	0
		その他	3	1	2	0	0	0
	その他	25	3	5	6	7	2	2
	合 計	4226	455	1457	1246	634	242	192



14-2. 権利擁護事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

高齢者の人権を護るため、相談や通報に対し市役所や関係機関と連携し、対応します。また、高齢者虐待、消費者被害の早期発見や予防を図るため、対処法や制度についての啓発活動を行います。

（２）実施内容・実績

【相談実績】（延べ件数）

相談内容内訳	相談件数
権利擁護	11
成年後見等	40
虐待関係	39
消費者被害等	3
財産・経済問題	72
合計	165

【主な連携機関】

- 市役所（介護保険課、生活支援課、市民福祉課など）
- コミュニティソーシャルワーカー
- ケアマネジャー
- リーガルサポート泉州支部（司法書士） ・大阪弁護士会「ひまわり」 ・行政書士会
- 法テラス
- 警察
- 消費者センター
- 日常生活自立支援事業 担当職員

【会議・研修】

- 地域包括支援センター職員向け 法律相談（2か月に1回 第4木曜日） 計6回
- 個別地域ケア会議、ケース会議の開催

（３）成果・評価

- 専門機関と連携する事により専門的な支援を行う事ができ、本人の生活の立て直しを図る事ができました。
- ケアマネジャーからの成年後見制度に関する相談が増えており、制度における地域包括支援センターの役割について認知度が高まっていると感じています。
- 消費者被害について、実態把握のためのアンケート調査を実施し、それをきっかけに消費者センターと情報交換、今後の連携について何ができるか話し合いました。

（４）課題・今後の方針

- 虐待ケースの早期発見や、消費者被害の防止、成年後見制度活用促進のために、地域への啓発、他の専門機関との情報共有の必要性を感じています。地域へ出向いた周知活動に加えて、広報誌やブログ等を活用した周知啓発に積極的に取り組んでいきます。
- 身寄りのない方についての病院からの相談が増えており、そういった方の支援について相互の役割や、支援における基準など、意識統一しておくことが必要であると感じています。

14-3 包括的・継続的ケアマネジメント事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

地域のケアマネジャーが包括的、継続的なケアマネジメントを実施できるよう、地域のネットワークを構築すると共にケアマネジャーへの支援を行います。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
ケアマネジャーへの支援・助言・相談	随時	延べ 530 件（内訳：●ケアマネジャーから利用者支援相談 248 件 ●ケアマネジャーから実務相談 155 件 ●ケアマネジャーから給付算定関係 65 件 ●個別地域ケア会議 1 件 ●個別事例検討会 0 件 ●その他 61 件）
ケアマネジャー連絡会	1 1 回（コロナ関係で 1 回中止）	延べ 322 名出席
ケアマネジャー連絡会 部会会議	1 1 回（コロナ関係で 1 回中止）	延べ 105 名出席（部会メンバー 9 名） ※内容により、介護保険課、サービス事業所部会、CSW の参加あり。
事業所連絡会	5 回（コロナ関係で 1 回中止）	延べ 97 名出席
Mina de jirei	1 回（事例提供がなかったため、1 回中止）	延べ 25 名出席
Mina de study	1 回（コロナ関係で 1 回中止）	延べ 52 名出席
Mina de jirei α	1 2 回（事例提供者、助言者として参加）	
6 市町ケアマネジャー 合同連絡会	2 回	

（３）成果・評価

ケアマネジャーと行政、医療機関、地域、サービス事業所部会、他の専門職団体が、自然な形で繋がっていけるよう後方支援を行ってきました。

ケアマネジャー間の連絡、調整手段として、「MCS」（メディカルケアステーション）の活用が定着しています。

平成 29 年度から、6 市町ケアマネジャー合同連絡会を通じて、「主治医意見書問診票」の内容の見直しについて泉佐野泉南医師会と協議していましたが、改訂版が泉佐野泉南医師会 HP にアップされました。改訂により市民目線の内容となり、今までの記入のしづらさが解消されました。

ケアマネジャー部会やケアマネジャーが主体的に立ち上げた勉強会を通じ、OJT（業務を通しての学習）の視点が広がりました。

自立支援型ケアマネジメントについて、研修会や自立支援型地域ケア会議、地域包括支援センターによる個別支援から学ぶことができ、自立支援の視点が浸透してきました。

ケアマネジャー連絡会や「mina de study」で、地域について学ぶ機会を設けました

また、社会福祉協議会の協力で、地域資源の紹介や「あんしんダイヤル」更新時にケアマネジャーが同行させてもらうことで、インフォーマルサービスの重要性を学び、ケアマネジャーの地域への理解がより深まりました。

専門職の資質向上を目的に、多職種連携や自立支援、地域を意識した活動を数多く行いました。

- ① ケアマネジャー部会のメンバーが「mina de jirei」「mina de jirei α」の助言者として、リハビリ職員や生活支援コーディネーター、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職と共に参加しました。

- ② ケアマネジャー連絡会、事業所連絡会で、モニタリングや自己覚知、サービス担当者会議、目標設定など、ケアマネジメントについて学ぶ機会を設けました。
- ③ ケアマネジャーの資質向上を目的に、「精神科の訪問看護」や「聴覚と認知機能の関係」「感染症（結核、エイズ）」について研修の場を設けました。

（４）課題・今後の方針

【課題】

研修会の開催や個別ケースの後方支援を行う中で、ケアマネジャー自身が主体的に学ぼうとする姿勢が芽生える一方、その流れに乗れないケアマネジャーとのケアマネジメント力の差が大きくなってきています。

地域包括支援センターへの提出書類の多さや難解さが、連絡会や研修会への参加を躊躇させるものとなっていると思われるため、開催方法や提出書類の再検討も必要になってきています。

事業所連絡会の参加者が減少していますが、「はなていネット」の各部会の活動が活性化してきていることもあり、事業所連絡会のあり方自体を検討していく時期になってきていると考えます。

【今後の方針】

ケアマネジャーがケアマネジメントの視野を広げ、専門職としての誇りを持って業務に取り組んでいけるよう、引き続き後方支援を行っていきます。

- ① 地域や社会資源を知ること、多職種との連携力を深めることを目的に、研修会を開催します。
- ② ケアマネジャーとサービス事業所がそれぞれの課題を出し合い、解決に向けて協働していけるよう、ケアマネジャー連絡会の事務局として各サービス事業所部会との連携を図ります。
- ③ 連絡会の開催数や必要書類の見直し（簡素化）によりケアマネジャーの業務の軽減を図ると共に、各連絡会や研修会の充実度を高めます。
- ④ ケアマネジャーが主体的に行う勉強会の充実を目指し、必要な情報提供や助言を行っていきます。
- ⑤ ケアマネジャーにとって地域包括支援センターが身近な相談先となるよう、個々に寄り添い、根気強く丁寧な個別対応を心がけていきます。

14-4. 地域ケア会議推進事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

圏域内での医療、介護、福祉等の専門職と、校区福祉委員会や民生委員、ボランティア等の住民活動者が連携協働し、高齢者の地域での生活を支えるため、個別、地区、市域等で地域ケア会議を開催します。
* 阪南市では地域ケア会議を「支えあい会議」という名称で進めています。

（２）実施内容・実績

個別支えあい会議、校区别支えあい会議、支えあい会議全体会を開催し、地域課題の共有や新たな施策、事業への反映、資源開発、地域づくりにつなげる重層的な地域ケア会議を開催します。また、地域福祉の要である社会福祉協議会、コミュニティソーシャルワーカーとともに地域課題の解決に向けた取組の企画、立案のための地域情報共有会議を開催します。

【個別支えあい会議】* 個別の相談事例について「〇〇さんを支えるには？」について意見交換

○実施回数 計 16 回

○参加者 本人、家族、近隣住民、民生委員、福祉委員、ケアマネジャー、サービス職員、ヘルパー職員、医療相談員、CSW（コミュニティソーシャルワーカー行政（障がい、生活困窮、介護保険）など

○テーマ 認知症、ネグレクト、身寄りのない方、婦人会との協働、高齢者・障がいの者の複合世帯、ひきこもり、居場所づくりなど

【校区・地区支えあい会議】＊地域全体の課題について、各校区・地区ごとに意見交換

○実施回数 計5回

○参加者 校区（地区）福祉委員会、民生児童委員協議会、自治会、ケアマネジャー、CSW（コミュニティソーシャルワーカー）、社協：生活支援コーディネーター、包括など

○テーマ 居場所づくり、ネットワークの構築、台風災害時における対応、精神疾患など

【支えあい会議全体会】＊地域全体の課題について、市全域での共有方法について意見交換

○実施回数 計3回

○参加者 CSW（コミュニティソーシャルワーカー）、社協：生活支援コーディネーター、市、包括

【地域情報共有会議】＊地域全体の課題について、各校区・地区での共有方法について意見交換

○実施回数 計23回

○参加者 CSW（コミュニティソーシャルワーカー）、社協：生活支援コーディネーター、市、包括、保健センター

（３）成果・評価

○8050問題、災害、近隣トラブル、認知症、マンションにおける高齢化など、地域内で起こっている諸問題について話しあうことで、地域課題を共有することができました。

○本人の居場所づくりを地域の中でどう進めていくかの話し合いが数度開催できたことで、地域の中で居場所がなく孤立しているという地域課題への気づきを促すことができました。

○これまで関わりの薄かった婦人会との協働事例では、認知症高齢者をともに地域で支えていく意識をお互い持つことができ、今後も協力体制を築けるきっかけになりました。

○ひきこもり高齢者を地域の活動者が主導で支援し、専門職と協働で社会とのつながりをつくることができました。

○地域情報共有会議に他専門職が参加することで、ともに地域課題を共有することができました。

（４）課題・今後の方針

○個別の課題を地域住民と専門職が協働で解決する事例は増えてきましたが、課題を生み出さないようにするための社会資源づくりまでには至っていません。

○地域でできること、専門職でできることを理解しあい、高齢者を中心とした地域住民をともに支えていく意識を持てるよう、話し合いの場づくりを展開していきます。

14-5. 介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

本会に配置された第1層、第2層生活支援コーディネーターと緊密に連携し、総合事業や生活支援サービスのあり方、住民主体による支援について検討するため、「阪南市生活支援・介護予防サービス協議会」の運営に積極的に参画・協力します。

（２）実施内容・実績

【第1層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への参画】

○ 計4回

【阪南市生活援助サービス従事者研修への講師協力】

○ 計2回

講義テーマ：「認知症の理解」「老化の理解」

【第2層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への協力】

舞シアサポート（部会への参画）

○ 計4回 その他、個別支援におけるケース会議等

箱の浦まちづくり協議会

○個別支援を中心とした協働支援

（3）成果・評価

○住民主体型サービスBに携わる地域活動者と個別事例での連携支援が増えています。

○生活支援コーディネーターと個別事例の連携を通じ、ボランティア活動によって高齢者の困りごとの解決につながりました。

（4）課題・今後の方針

○住民主体型サービスBに携わる地域活動者との連携が、一定の地域で留まっており、圏域全体への活動展開につながっていません。

○総合事業の活動に関わらず、地域の諸団体とともに取り組みを進められるよう、生活支援コーディネーターとの協力体制を強めていく必要があります。

14-6. 在宅医療・介護連携の推進事業（市受託：包括的支援事業）

（1）事業概要

医療職及び介護職の「顔の見える関係」を築くため「医療と介護の多職種連携会議」へ参画し、医療と介護の円滑な支援体制を構築します。

（2）実施内容・実績

【阪南市医療と介護の多職種連携会議（はなていネット）への参画】

○運営会議

計4回

○連携会議

計2回

○市民公開講座

計1回

（開催に向けた打ち合わせ）

計7回

○はなていネット戦略会議 計5回

○訪問看護部会 計2回

○病院部会

計6回（打ち合わせ含む）

○通所部会

計3回

○訪問介護部会

計8回（打ち合わせ、研修含む）

【その他、在宅医療の推進にかかる会議、打ち合わせ等】

○南泉州医療介護連携協議会

計4回

○泉州がん診療連携協議会緩和ケア部会

計1回

（3）成果・評価

○各専門職部会の事務局として、事業所や病院、施設間の連携強化、他専門職との連携の必要性、特に地域との協働について提言し、様々な取り組みにつながっています。

○はなていネットの連携会議や市民公開講座では、講師協力も行うなど、積極的な参画を進めています。

（4）課題・今後の方針

○専門職が地域へ気軽に出向ける体制づくりは少しずつ進んでいますが、具体的な仕組みの構築にまでは至っていません。

○来年度は、既存の取組にはなていネット専門職が参画できるよう調整していきます。

14-7 介護予防事業普及啓発活動への協力（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

①いきいき百歳体操

錘を使用し、エビデンスのある体操を推奨することで、高齢者の筋力を高めるだけでなく、住民主体の通いの場の設置を支援し介護予防を図ります。

②出前講座

保健師や専門職による介護予防・認知症予防を行うことで、介護予防や認知症予防に対しての意識づけを行い、健康増進を図ります。

（２）実施内容・実績

①いきいき百歳体操

・DVDを見ながら、住民自ら錘を使用して体操を実施。

【初回指導】（１グループにつき４回）実施 実績 開催 ３グループ １１回 延参加者数 215 人

【経過指導】（３か月・６か月・１年後・以降半年に１回）実績 開催 １８回 延参加者数 222 人

【交流会】実績 開催 １回 延参加者数 62 人

②出前講座

・ノリの良い曲に合わせての介護予防運動、脳トレを用いての認知症予防

・訪問看護師による「脳梗塞の兆候」等

実績開催 １０回 延参加者数 1,010 人

（３）成果・評価

①いきいき百歳体操は本年度が４年目となり、グループ設置目標数（市全体）20グループのところ、実績20グループとなり、目標達成できました。交流会を行い、表彰状を授与したり、グループの代表が、継続するためのポイント等を説明したことで、参加者同士のモチベーションを保つことにつながりました。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響で自粛している方でも、自主的に家で取り組まれているという報告もあり、百歳体操に取り組む中で介護予防への意識付けができていていると考えます。

②出前講座は、介護予防や認知症予防につながる運動・脳トレ等を楽しみ、笑いも取り入れながらの実施となりました。「認知症にならないための予防」のみではなく、認知症は特別なことではないことを説明し、対応方法などを伝えて認知症への理解を促しました。

また、訪問看護師による講座は、受講者にとって疾病の早期発見にもつながり有意義なものでした。訪問看護師の役割を身近に感じてもらうきっかけになりました。

（４）課題・今後の方針

①誰もが身近な場所で百歳体操が開催されるように、積極的にPRを行い、普及啓発に努めます。

②はなていネット（阪南市多職種連携会議）等と連携を取りながら、専門職が地域に出向き様々な事業や健康づくり・介護予防の必要性について伝え、参加住民のモチベーションをあげながら継続開催できるよう進めていきます。

14-8. 任意事業：介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業 (市受託：包括的支援事業)

(1) 事業概要

介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業に協力し、高齢者やその家族の経済的、精神的な負担軽減や介護サービス事業所のサービス力の質の向上をめざします。

(2) 実施内容・実績

【介護用品支給事業】：要介護3～5の高齢者に対し、申請代行等を行います。

○計7件

【住宅改修支援事業】：住宅改修に関する助言や住宅改修理由書の作成に協力します。

○計12件

【介護相談員派遣事業】：意見交換会への参加等を行います。

○令和元年9月25日 介護相談員派遣事業活動報告会

(3) 成果・評価

【介護用品支給事業】

○経済的な負担軽減につながりました。

【住宅改修支援事業】

○継続して住宅改修にかかる手続き支援を行いました。

【介護相談員派遣事業】

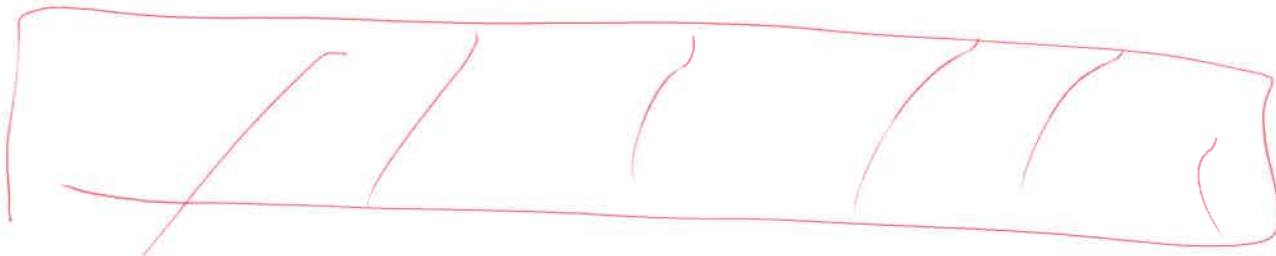
○事業所の利用者からの相談を市民の目線で受けることで、内部だけでは解決しがたい課題に目を向けるきっかけにつながることを感じました。

(4) 課題・今後の方針

【介護用品支給事業】

【住宅改修支援事業】

○広報誌やブログ等の活用による周知を広めていきます。



15-1 認知症施策の推進（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

認知症地域支援推進を配置し、認知症当事者や家族などが尊厳を保ちながら、その人らしく穏やかに生活を送ることができるよう、認知症施策や事業の企画、調整などコーディネートし、認知症の人が地域で暮らし続けるために、医療、介護では支えられない地域の支援者や支援機関とのつながりづくりを行っています。

（２）実施内容・実績

【①普及啓発・本人発信支援】

- 認知症サポーター養成講座 30回 607名
- 地域別キャラバン・メイト連絡会 26回
- 地域別代表者会議 1回
- キャラバン・メイト総会 1回 31名
- ステップアップ研修 2回 57名
- 認知症講演会（市民公開講座） 1回 750名
- 認知症にやさしい図書館
- 本人発信支援「チーム飯田」

【②予防（備え）】

- 卓球クラブ中田会の活動支援
- おにぎり会の米作り活動支援
- 認知症予防カフェ「くつろぎカフェ」活動支援
- パーキンソン病患者「あざみ会」活動支援
- 高齢者食事会「おしゃべり会」出前講座

【③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援】

- 認知症初期集中チーム員支援会議 11回
- 認知症初期集中支援チーム員会議 39回
- 初期集中支援チーム対応件数 18件
- 初期集中支援チーム検討会 2回
- 若年性及び認知症の介護者の負担軽減支援
- マスターズCafeの活動・相談支援
- 徘徊SOSネットワーク事業の協力
- 3市3町認知症対応ネットワーク会議5回
- はなてい連携会議（多職種連携会議）「チーム飯田」
- かかりつけ医認知症対応力向上研修/認知症サミット
- 大阪府内認知症連携関係者連絡会 年4回
- 6市町村認知症地域支援推進員連絡会

【④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援】

- 専門医との連携・受診支援
- 若年性認知症支援者の勉強会企画開催
- 若年性認知症の方の社会参加支援
- 若年性認知症の方の就労支援
- 本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ地域支援の体制強化（「チームオレンジ」）の構築（マスターズCafe、おにぎり会（カフェ、餅つき交流会）、卓球クラブ中田会、釣りプロジェクト）

【⑤研究開発】

- 厚生労働省回想法レビューレクリエーション調査協力
- 施設職員向け地域回想法「思い出ネットワークショップ」
- 第3回日本エンドオブライフ学会への協働演者

認知症地域支援推進員活動状況（個別支援）

	延件数
利用者からの相談	199
家族からの相談	140
関係機関等からの相談	180
関係機関との連携体制構築等	218
認知症初期集中支援チームとの連携	53
その他	2
合計	792

認知症地域支援推進員活動状況（団体支援）

	延件数	参加人数等
西圏域	143	5482

(3) 成果・評価

○普及啓発・本人発信支援

世界アルツハイマー月間に開催された市民公開講座では、みはるの杜診療所石原医師が「認知症の人が尊厳と希望を持って認知症とともに生きる」をテーマに講演し、地域住民や専門職も含む750人の参加がありました。また、認知症のある方が、活躍する姿を発信する機会になり、阪南市における認知症の取り組みを知るとともに、予防に関心が強かった住民も、認知症は他人ごとではない理解が広がりました。また、認知症にやさしい図書館では、昨年度から始まった、本人・介護者が運営する『マスターズCafe』の継続、認知症関連の特設コーナーの設置、認知症サポーター養成講座を開催し、一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ「認知症とともに生きる希望宣言」の掲示を行いました。

※「阪南市認知症にやさしい図書館」2019 厚生労働省HP 世界アルツハイマーデー及び月刊、11月図書館雑誌。

キャラバン・メイト活動では、圏域別の連絡会の運営や地域ごとの特性やネットワークを生かし、シルバー人材センター、企業、中・高等学校向け認知症サポーター養成講座を開催しました。令和元年6月に政府の「認知症施策推進関係閣僚会議」で「認知症施策大綱」がとりまとめられ、「地域において認知症の人や家族の困りごとの支援ニーズと認知症サポーターをつなげる仕組み」となるチームオレンジについて、「認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援等を図るとともに、認知症サポーターのさらなる活躍の場を整備する」としております。今年度、阪南市はチームオレンジ等構築モデル市町村に選定され、既存の活動に対して、ステップアップ講座を開催し、ワーキンググループメンバーとして府に協力し、活動事例集を作成しました。

○予防（備え）

「パーキンソン病患者あざみ会」は、専門職から紹介された会員も増えており、当事者や家族が病気の困りごとを話し合い、交流場になっています。また、地域の理学療法士、薬剤師の協力のもと、ドーパミンが増えることを意識し、体力測定やワンポイント講義、簡易チェックをおこない介護・認知症状の進行予防にも取り組んでいます。

認知症予防「くつろぎカフェ」（回想法）、認知症サポート医、看護師によるミニ講座や、住民からの依頼で、保健師と地域に出向き、「おしゃべり会」出前講座を開催しました。

「卓球クラブ中田会」では、認知症のある方や聴覚障がいのある方が参加し、運動不足の改善や学生との交流など行いました。

○医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

初期集中支援チームでは、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、観察や評価を行った上で、家族支援等の初期の支援を包括的・集中的に行っています。かかりつけ医と認知症サポート医と連携を図り、適切に支援が受けられるよう関係者の支援だけにとどまらず、地域との関わりや本人のやりがいに視点を当てた支援を行いました。認知症機能の低下のある人（MCI）、気づいていない人に対してどのようにアプローチしていくのか、早期発見・対応は難しく感じています。

泉佐野泉南医師会主催の3市3町認知症ネットワーク会議へ参画し、各市町村の取組を共有し、かかりつけ医認知症対応力向上研修/第5回認知症サミットの企画や事例報告を行いました。

はなていネット（阪南市医療と介護の多職種連携会議）では、「地域と関わりが希薄で介護力の弱い若年性認知症の人の支援を通して考える」をテーマに事例紹介、グループワークを行いました。チームアプローチの大切を知ってもらうために、本人や家族、支援者に登壇してもらいインタビュー形式で、「チーム飯田」における実際の支援や現状を報告しました。

認知症介護をしている家族の気持ちを理解し、接し方や悩みを聞きながら、本人の意向を最大限に尊重し、生きがいや希望をもって過ごしてもらえるよう、また、通院時のフォローや本人の行動・心理

症状に合わせて、その人にあった支援を家族、専門医師と相談しながら支援しました。認知症と知られたくないために相談窓口へは行きづらい方には、『マスターズCafe』などの認知症カフェの場で、介護者家族の会、介護保険課と協力して相談支援も行いました。

○認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

若年性認知症の方の社会参加、就労支援をしていく中で、支援者側の戸惑いや思い、接し方の違いの課題がみえ、「本人の自尊心を傷つけていないか」、「家族を傷つけていないか」本人のしたいこと、能力にマッチしていないと手持ちぶさたになり充実感がえられないのではないかと感じ、サポート医を含む関係者41名に参加してもらい、若年性認知症認知症支援者の勉強会を企画・開催しました。

これまでの支援経過や、本人たちが参加するマスターズCafe、おにぎり会の活動を報告。認知症の人や支援者が、現状や感じていることを意見交換し、これからの支援に活かせることを全体で共有した。本人と関わりのある専門医師の協力で、「若年性認知症について継続支援とケア若年性認知症の特性を理解して」「若年性認知症の人の支援を考える」の講義を行いました。

また、認知症のある方や関係者団体からは、相談窓口の啓発と、それぞれが役割をもち支援や活動に活かしたいなど、前向きな意見があった。専門医師からは、若年性認知症の理解の場としてつながっていることが素晴らしく、次の若年性認知症の方の支援の場となり、これからも阪南市と連携して支援していくと心強い言葉を頂きました。

※阪南市若年性認知症支援者の勉強会への協力いただいた関係者

浅香山病院精神科部長 堺市精神科・認知症疾患医療センター長 釜江（繁信）和恵
大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄附講座助教 長瀬 亜岐
大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄附講座准教授 橋本 衛
田中医院 田中 亜紀

「おにぎり会」は、認知症高齢者の支援から始まり、住民、施設職員が主体となり田植えから収穫までの作業と、米の寄贈や運営のための販売へ活動が発展している。おにぎりカフェ、もちつき3施設交流会を開催し、若年性認知症のある方、家族、地域の高齢者施設や子育て支援センター、障害者施設も参加し、高齢者や認知症のある方だけでなく子どもたちも含めた、共生の居場所づくりとして、各関係機関と共に活動支援を行った。認知症予防に資する可能性のある活動としても視野に推進していきます。

※10月泉州アートサミットへ登壇

「マスターズCafe」は、認知症のある方・介護者の男性グループが主となり、毎週1杯100円で、コーヒーや紅茶等のドリンクを提供しながら、同じ悩みをもつ人同士交流を図っている。また、週替わりでキャラバン・メイト、介護者家族の会（有志）、回想法ボランティア、手話サークル、障がい福祉サービスと連携して活動をサポートしています。

難聴のある方が主体となって活動している手話サークルが、マスターズCafeの活動に影響を受け、立ち上げを決意し、話しあいを重ね、マスターズCafeの姉妹カフェとしてコーディネートし、「手話カフェ」が同じ場所、違う曜日に定期開催するなど、協力団体が増え、認知症だけにとらわれない、さまざまな形で発展・普及につながっています。

※「マスターズCafe」12月読売新聞へ掲載、2月NHKニュースほっと関西へ出演、関西ラジオワイド放送。
広報はなん9月号に掲載。

○研究開発

回想法ボランティア、介護施設における「思い出ノート」使ったワークショップを企画・開催し、本人とのコミュニケーションやQOLの向上がどのように介護従事者の負担軽減につながるかを、

厚生労働省「老人保健健康増進等事業」回想法レクリエーションの効果研究調査事業に協力しました。

第3回日本エンドオブライフケア学会へ「認知症高齢者に対する回想法とエンディングノートを組み合わせた意思決定支援の試み」をテーマに協働演者として発表しました。

(4) 課題・今後の方針

認知症のある方を、より身近なサロンカフェへの参加支援につなげましたが、認知症理解の周知や啓発をしていても親しい関係性がなければ、なかなか地域に馴染めず、参加は難しいと感じました。介護保険等のサービスの利用を本人が希望しないことにより、社会から孤立している状態にある人への対応も含め、適切な医療・介護サービスへつなぐだけではなく、社会参加できる取り組みをさらに強化していく必要性があります。認知症等にやさしい地域づくりの活動が広がりはじめたことで、認知症は高齢者に関わらず、だれにでもなりうることだと本人や家族と通じて体感し、その学びを活かすためにも支援方法の勉強会や家族同士のピアカウンセリング活動を推進し、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせるよう関係機関と協力しながら支援体制づくりをすすめていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
33,148,000 円	市受託金収入	2016年度

16-1. 介護予防サービス計画の作成（指定介護予防支援事業）

(1) 事業概要

加齢や疾病によって“生活の一部に支援が必要な状態”や、“介護保険サービスを適切に利用することで心身機能の改善が見込まれる可能性がある”として、要支援1、要支援2、事業対象者に認定された方々の自立支援を目指し、本人のやる気を引き出せるように介護保険サービスや地域住民、ボランティアやインフォーマルサービスを組み込んだ計画を本人、家族、関係機関と調整しながら作成します。

(2) 実施内容・実績

【ケアプラン作成件数】 下記 参照

○総ケアプラン数 合計 3,976件

(包括作成数 1,417件 委託数 2,559件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
介護予防ケアマネジメントケアプラン作成件数	134	121	122	123	118	118	115	113	110	117	117	109	1,417
上記の内訳													
包括直接作成	39	33	33	36	33	34	33	32	33	35	35	30	406
居宅介護支援事業所へ委託	95	88	89	87	85	84	82	81	77	82	82	79	1,011
介護予防ケアプラン作成件数	188	198	201	211	214	213	217	221	218	219	221	228	2,559
上記の内訳													
包括直接作成	40	43	47	53	55	56	54	55	54	58	57	58	630
居宅介護支援事業所へ委託	158	155	154	158	159	157	163	166	162	159	162	168	1,921

(3) 成果・評価

○包括作成数が約2割増加し、委託数が約1割減少となりました。

○自立支援型のケアプラン作成を心がけ、要支援から自立になる事例も多くなっています。

(4) 課題・今後の方針

○委託先のケアマネジャー数が足りないことや、安定的な包括事業の運営のため、自機関で受け持つケアプラン数が多くなっています。

○ケアプラン数は維持しつつ、全体の業務を効率的かつバランスよく遂行していきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
17,923,000	介護保険事業収入	2016年度

17-1. キャラバンメイト育成支援業務（市受託事業）

（１）事業概要

キャラバンメイトの事務局として、尾崎・東鳥取地域包括支援センター、認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバンメイトと協働で講座を開催し、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をめざします。

（２）実施内容・実績

【認知症サポーター養成講座】

○開催数 30回 受講者数 607名

【ステップアップ講座】

○開催数 2回 受講者数 57名

【キャラバン・メイト連絡会・総会】

○地域別連絡会 計 26回 延参加数 207名

○代表者会議 計 1回 延参加数 10名

○総会のための企画会議 計 1回 延参加数 4名

○総会 計 1回 31名

○総会のふりかえり 計 2回 15名

（３）成果・評価

○圏域別連絡会、代表者会議の事務局として、地域ごとの特性、普段のネットワークを活かした認知症サポーター養成講座開催の後方支援を行いました。

（４）課題・今後の方針

○認知症サポーター養成講座については、市民に周知されていないのが現状です。今後、PRをして市民に広く周知する必要があります。

○また、認知症の方と支援する側（サポーター）をマッチング（＝チームオレンジの設置）して集いの場へのつながりに向けて努めていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
50,000円	キャラバンメイト育成支援業務委託収入	2018年度

18-1. 認知症啓発業務（市受託事業）

（１）事業概要

認知症に対する理解の普及・啓発のため、圏域、校区（地区）、自治会単位等の身近な地域での啓発活動を進めるため、認知症（予防）講演会を開催いたします。

（２）実施内容・実績

【認知症普及・啓発業務】

① ワークショップ

テーマ：「思い出ノート」（回想法）を活用したワークショップ

講師：認知症予防財団 毎日新聞社 椎原 洋 氏

市内施設職員

回想法ボランティアグループ スイートピー

実績：参加人数 42名

② 勉強会

テーマ：若年性認知症支援者の勉強会

講師：浅香山病院精神科部長 堺市精神科・認知症疾患医療センター長 釜江（敏信）和恵 氏
大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄付講座助教
長瀬 亜紀 氏

協力：大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄付講座准教授
橋本 衛 氏

田中医院 田中医師

実績：参加人数 41名

（３）成果・評価

○認知症に関心のある方や施設職員向けに、認知症予防のひとつ回想法を活用し、昔の話を思い出してもらい人と話すことを通じて脳の活性化につなげ、参加してもらった方に関心を持っていただきました。

○認知症の普及啓発と、ワークショップを通じて、介護従事者が利用者のより深いアセスメント情報や思い出に触れることにより、利用者とのコミュニケーションの向上、QOL向上がどのように介護従事者の負担軽減につながるかを、今年度の※厚労省補助金を得て、認知症予防財団と共に調査研究に協力しました。

○年性認知症のある方の社会参加、就労支援をしていく中で、支援者の戸惑いや思い、接し方の違いの課題が見え、その人の支援に関わる関係者と勉強会を開催しました。

（４）課題・今後の方針

○今年度と同様、ワークショップや勉強会など、手法にとらわれずに周知啓発活動を行っていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
70,000 円	認知症啓発事業業務委託収入	2018年度

その他の会議・研修等

① 地域包括ケアに関連する会議

【会議名：阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会】

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和元年 7 月 18 日	阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会 (阪南市／商工会館)	熊抱
令和元年 11 月 21 日	阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会 (阪南市／商工会館)	熊抱

【会議名：阪南市地域包括支援センター連絡会議（地域包括ケア推進戦略会議）】

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和元年 4 月 17 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱、寺井、岡
令和元年 5 月 15 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱、岡
令和元年 6 月 19 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱、岡
令和元年 7 月 17 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱
令和元年 8 月 21 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱
令和元年 9 月 18 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱
令和元年 10 月 16 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱、岡
令和元年 11 月 20 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱
令和元年 12 月 18 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱、岡
令和 2 年 1 月 15 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱、岡
令和 2 年 3 月 17 日	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市／地域交流館)	熊抱

【会議名：阪南市地域包括支援センター社会福祉士会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年 5 月 22 日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津
令和元年 6 月 4 日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津
令和元年 7 月 5 日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津
令和元年 8 月 9 日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津
令和元年 9 月 6 日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津
令和元年 10 月 2 日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津
令和元年 11 月 6 日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津
令和元年 12 月 6 日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津

【会議名：阪南市・阪南市地域包括支援センター医療職会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年 12 月 16 日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱、船津

【会議名：阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年 7 月 25 日	西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	熊抱、大塚、寺井、船津、植田、安永、岡

【会議名：地域福祉推進計画作業委員会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年 7 月 25 日	地域福祉推進計画作業委員会（阪南市、社会福祉協議会／まもる館）	熊抱

【会議名：丸ごと連絡会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年 5 月 16 日	丸ごと連絡会（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和元年 7 月 4 日	丸ごと連絡会（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和元年 9 月 5 日	丸ごと連絡会（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和元年 11 月 7 日	丸ごと連絡会（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和元年 1 月 16 日	丸ごと連絡会（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱

【会議名：校区福祉委員会委員長長事務長コーディネーター会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年 5 月 10 日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネーター会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和元年 7 月 12 日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネーター会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和元年 9 月 13 日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネーター会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和元年 11 月 8 日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネーター会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和 2 年 1 月 10 日	校区福祉委員会校区長事務長コーディネーター会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱

② その他、関連する会議等

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（グループホーム白馬）】

日 時	名 称	参加者
令和元年 7 月 17 日	地域密着型サービス運営推進会議	船津
令和元年 11 月 27 日	地域密着型サービス運営推進会議	船津

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（グループホームミズナス）】

日 時	名 称	参加者
令和元年6月18日	地域密着型サービス運営推進会議	安永
令和元年10月29日	地域密着型サービス運営推進会議	安永

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（デイ介護サービスリブ）】

日 時	名 称	参加者
令和元年12月19日	地域密着型サービス運営推進会議	岡

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（小規模多機能型居宅介護 下荘）】

日 時	名 称	参加者
令和元年7月25日	地域密着型サービス運営推進会議	熊抱
令和元年11月21日	地域密着型サービス運営推進会議	熊抱

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（ほっとデイわが家）】

日 時	名 称	参加者
令和2年2月26日	地域密着型サービス運営推進会議	植田

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（グループホーム はるすのお家・阪南）】

日 時	名 称	参加者
令和元年7月26日	地域密着型サービス運営推進会議	船津
令和元年11月29日	地域密着型サービス運営推進会議	船津

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（ピープルデイサービスセンターはんなん）】

日 時	名 称	参加者
令和2年2月28日	地域密着型サービス運営推進会議	岡

【会議名：地域密着型サービス運営推進会議（デイサービスセンター海薈・小規模多機能型サービス海薈）】

日 時	名 称	参加者
令和元年7月18日	地域密着型サービス運営推進会議	大塚
令和元年11月21日	地域密着型サービス運営推進会議	大塚

③ その他、関連する研修等

【資質向上、新任研修会等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年5月9日	大阪府市町村社協新任職員研修会（大阪府社協／大阪府社会福祉会館）	植田
令和元年5月16日	大阪府市町村社協新任職員研修会（大阪府社協／大阪府社会福祉指導センター）	植田

令和元年 5 月 23 日	大阪府市町村社協新任職員研修会（大阪府社協／阪南市社会福祉協議会）	植田
令和元年 5 月 27 日	大阪府市町村社協新任職員研修会（大阪府社協／大阪府社会福祉指導センター）	植田
令和元年 6 月 27 日	高齢者に接する関係者向け暑さ対策セミナー（大阪府社協／大阪科学技術センタービル）	大塚
令和元年 8 月 10 日	「生きるを楽しむ」ために私たちがお手伝いすること（社会福祉法人大泉会／サラダホール）	大塚
令和元年 8 月 31 日	人生 100 年時代市民塾（一般社団法人「らふ」／サラダホール）	安永
令和元年 9 月 14 日	災害対策研修（訪問看護協会／さつきホール）	大塚
令和元年 10 月 19 日	人生 100 年時代市民塾（一般社団法人「らふ」／りんくう病院教育研修棟）	安永
令和元年 11 月 13 日	下荘地区福祉委員会研修（箱作校区下荘地区福祉委員会／箱作住民センター）	熊抱
令和元年 11 月 26 日	大阪府社会福祉大会（大阪府社協／大阪国際交流センター）	岡
令和元年 12 月 11 日	口腔ケア研修（訪問看護ステーションハル／サラダホール）	大塚

【地域包括ケアに関連する研修等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年 4 月 23 日	地域リハビリテーション部会自立支援型地域ケア会議研修（阪南市／地域交流館）	熊抱
令和元年 5 月 25 日	介護支援専門員資質向上研修（ケアマネ協会南泉州支部／阪南市役所）	寺井
令和元年 5 月 30 日	自立支援型地域ケア会議司会者養成研修（大阪府／マイドームおおさか）	寺井
令和元年 6 月 18 日	Minā de study（阪南市東西包括／さつきホール）	熊抱、寺井 船津
令和元年 10 月 26 日	ケアマネ協会支部総会研修会（大阪府ケアマネ協会／OMM ビル地下 1 階会議室）	寺井

令和2年1月11日	介護支援専門員資質向上研修（ケアマネ協会南泉州支部／阪南市役所）	寺井
令和2年2月10日	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業第2回近畿ブロック研修会（厚労省・阪南市／サラダホール）	熊抱

【介護保険サービス集団指導】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年11月28日	地域密着型サービス集団指導（泉佐野市広域福祉課／田尻町ふれあいセンター）	熊抱

【医師会・在宅医療関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年5月20日	南泉州医療介護連携協議会総会および第28回協議会（南泉州医療介護連携協議会／あいぴあ泉南）	寺井
令和元年9月21日	市民公開講座（阪南市・はなていネット／サラダホール）	熊抱、大塚岡
令和2年2月8日	認知症かかりつけ医向上研修：認知症サミット（泉佐野泉南医師会／りんくう研修棟）	大塚、岡

【認知症関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年8月20日	チームオレンジ研修（全国キャラバン隊連絡協議会／TKP ガーデンシティ大阪梅田）	安永
令和元年10月25日	チームオレンジワーキング（大阪府／大阪府庁新別館）	安永
令和元年11月28日	認知症地域支援推進員研修（認知症介護研究・研修東京センター／TKP ガーデンシティ）	岡
令和元年11月29日	認知症地域支援推進員研修（認知症介護研究・研修東京センター／TKP ガーデンシティ）	岡
令和2年1月28日	チームオレンジワーキング（大阪府／大阪府庁新別館）	安永

【人権、権利擁護、虐待関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和元年6月11日	高齢者虐待対応基礎研修（大阪府／大阪府社会福祉協議会）	大塚

令和元年 10 月 16 日	南泉州医療介護連携協議会（南泉州医療介護連携協議会／あいびあ泉南）	大塚
----------------	-----------------------------------	----

【講師協力、視察研修等】

日 時	名 称（主催／場所）	対応
令和元年 5 月 23 日	市町村社協新任職員研修（大阪府社会福祉協議会／マスターズカフェ）	岡
令和元年 6 月 18 日	Mina de study（東鳥取・尾崎、西鳥取・下荘地域包括支援センター／さつきホール）	熊抱、船津
令和元年 8 月 30 日	生活支援コーディネーター養成研修（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	大塚、岡
令和元年 9 月 12 日	共生・福祉のまちづくり【ソーシャルインクルージョン】研修会／（大阪府社会福祉会館／大阪府社協）	熊抱
令和元年 10 月 26 日	泉州アートサミット 2019（泉州アートサミット実行委員会／阪南市立文化センター）	岡
令和 2 年 1 月 16 日	阪南市職員研修（阪南市／マスターズカフェ）	岡
令和 2 年 1 月 30 日	大阪府（介護者家族）の会連絡会（大阪府（介護者家族）の会／マスターズカフェ）	岡

④ メディア・広報（TV・新聞・機関紙等）への掲載

日 時	名 称	対応
令和 2 年 1 2 月	読売新聞 「マスターズカフェ」 新聞掲載	岡
令和 2 年 2 月	NHKニュースほっと関西 「マスターズカフェ」 TV出演	岡
令和 2 年 2 月	NHK関西ラジオワイド 「マスターズカフェ」 ラジオので紹介	岡

